

基本計画 重点プログラム 市民アンケート報告書

平成 26 年（2014 年）9 月

横 須 賀 市

はじめに

横須賀市では、平成 10 年に策定した横須賀市総合計画に基づき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。

平成 23 年 4 月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画がスタートしています。

この基本計画では、計画期間中に、特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的とした「重点プログラム」を位置付けています。

今回、重点プログラムの目的、各プログラムの取り組みの方向性に対する市民の皆さまの実感を伺うアンケート調査を実施しました。(15 歳以上の 2,000 の方が対象) 本調査は、平成 23 年度から継続して実施しているものです。

調査で得られた結果は、重点政策・施策評価や政策展開を検討する上での基礎資料として、十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには、厚くお礼申し上げます。

平成 26 年（2014 年）9 月

横須賀市都市政策研究所

報告書の見方

1. 基本計画重点プログラム市民アンケートでは、各重点プログラムが実現を目指す都市の姿、その都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、実感を尋ねている。(P100 アンケート調査票参照)

(1) 現在について

重点プログラムの取り組みの方向性で掲げる状態にあるか

⇒ 「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定

(2) 以前との比較

重点プログラムの取り組みの方向性に向かって

⇒ 「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」「③変わっていない」「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、「⑥わからない」を設定

2. アンケートの設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI（ディフュージョンインデックス 景気動向指数／拡散指数）の考え方を利用している。

プラスの回答ポイント - マイナスの回答ポイント = DI として記述している。

※DI とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。
マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。

3. 集計結果では、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。
回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。

・現在について 「①思う」 + 「② やや思う」

・以前との比較 「①よくなっている」 + 「②どちらかというよくなっている」

⇒プラスの回答ポイント

・現在について 「④ あまり思わない」 + 「⑤思わない」

・以前との比較 「④どちらかという悪くなっている」 + 「⑤悪くなっている」

⇒マイナスの回答ポイント

・DI がプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある

・DI がマイナス … アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

4. 調査結果では、各項目の平成 24 年度から 26 年度までの直近 3 カ年の DI を比較し、数値の変化について、以下の基準で記述している。

各年度間の差	状況
3 ポイント未満	変化なし
3～5 ポイント未満	大きな変化なし
5～10 ポイント未満	上昇 / 低下
10 ポイント以上	大幅に上昇 / 大幅に低下

目 次

I 調査目的および実施方法等	1
II 集計結果 –プログラム別の状況–	5
重点プログラム1「新しい芽を育む」 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～	
1 取り組みの方向性の傾向	5
2 回答理由分類	9
重点プログラム2「命を守る」 ～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	15
2 回答理由分類	19
重点プログラム3「環境を守る」 ～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	25
2 回答理由分類	29
重点プログラム4「にぎわいを生む」 ～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	33
2 回答理由分類	37
重点プログラム5「地域力を育む」 ～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～	
1 取り組みの方向性の傾向	43
2 回答理由分類	47

Ⅲ 集計結果	－重点プログラムの取り組みの方向性別の状況－	51
1	「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況 (プログラム1・2・3)	51
2	「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況 (プログラム4・5)	55
Ⅳ	持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について	57
1	持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向	57
2	回答理由分類	59
Ⅴ	持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）	
	－優先して取り組むべき政策について－	63
1	優先して取り組むべき政策の傾向	63
2	優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感	65
3	自由記述回答	66
Ⅵ	横須賀市の魅力やイメージについて	69
1	横須賀市の魅力について	69
2	横須賀市への愛着について	71
3	横須賀市のイメージについて	72
Ⅶ	横須賀市の住み良さや定住意識について	75
1	横須賀市の住み良さについて	75
2	横須賀市への定住意識について	76
3	回答理由分類	81
4	定住意識と重点プログラムの傾向	85

VII 健康づくりについて	89
1 健康状態について	89
2 健康状態の把握手段について	90
3 習慣的な運動の実施状況について	91
IX 地産地消について	93
1 農水産物の産地に対する意識について	93
2 横須賀市産の農水産物の選択について	94
X 横須賀製鉄所（造船所）について	95
1 横須賀製鉄所の認知度について	95
2 横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について	96
基本的な属性（F 1～F 6）	97
調査票	100

I 調査目的および実施方法等

1 調査目的

- (1) 横須賀市基本計画（2011～2021）に掲げた重点プログラムの目的である「持続可能な発展に必要な都市力（都市の魅力）」の向上や、各プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、市民の実感を把握し、今後の政策・施策の改善に活用する。
- (2) 重点プログラムを効果的に推進するため、プログラムを構成する事業を検証し、今後の方向性を検討する重点政策・施策評価に活用する。

2 調査項目

問 1～10	「都市の姿を実現するための取り組みの方向性」について	
問 11	「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」について	
問 12	「優先して取り組むべき政策」について	
問 13	「横須賀市の魅力」について	
問 14	「横須賀市への愛着」について	
問 15	「横須賀市のイメージ」について (現在の都市イメージ・望ましい都市イメージ)	
問 16	「横須賀市の住み良さ」について	【新規設問】
問 17～19	「横須賀市への定住意識」について	【新規設問】
問 20～22	「健康づくり」について	【新規設問】
問 23・24	「地産地消」について	【新規設問】
問 25・26	「横須賀製鉄所（造船所）」について	【新規設問】

<基本的な属性>

F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 /
F 5 世帯の状況 / F 6 居住年数

3 調査項目と重点プログラムの対応関係

アンケートの調査項目のうち、問1～問10は、各重点プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性に対応した設問である。

また、問11は、重点プログラムの目的である「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」についての設問で、いずれも、**市民の実感**を尋ねる内容となっている。

調査項目と基本計画重点プログラムの対応関係

重点プログラム		取り組みの方向性		対応する設問
1	新しい芽を育む	1-1	子どもを産み育てやすいまちづくり	問1
		1-2	人間性豊かな子どもの育成	問2
2	命を守る	2-1	誰もが活躍できるまちづくり	問3
		2-2	安全で安心なまちづくり	問4
3	環境を守る	3-1	人と自然が共生するまちづくり	問5
		3-2	地球環境に貢献するまちづくり	問6
4	にぎわいを生む	4-1	地域経済の活性化と雇用の創出	問7
		4-2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	問8
5	地域力を育む	5-1	地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	問9
		5-2	地域を支えるコミュニティー機能の強化	問10

4 調査対象および回収数

調査対象：横須賀市に在住の15歳以上の市民 2,000人

(平成26年4月1日現在；住民基本台帳から無作為抽出)

回収数	回収率	昨年度比
731件	36.6%	±0ポイント

5 実施方法

郵送による発送および回収

アンケートの実施に際しては、昨年度の調査同様、基本計画に掲げた重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封した。

【昨年度の調査との変更点】

(1) 設問の変更

＊各プログラムが実現を目指す都市の姿に関する設問を削除

(例：プログラム1「次代を担う新しい芽が育まれる都市」)

過年度の調査結果において、設問が抽象的かつ曖昧で分かりにくいことから、各プログラムの取り組みの方向性(例：1-1/1-2)の回答傾向と、各プログラムが実現を目指す都市の姿における回答傾向に相違が見られたため、各プログラムの取り組みの方向性に関する設問のみとした。

(2) 設問の変更

＊プログラム2「命を守る」 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

問3 (アンケート調査票P102参照)

過年度の調査結果において、当該プログラムにおける「活躍」の主旨が回答者に正しく伝わっていない傾向が見られたことから、設問中に「いきいきと暮らせる」の文言を補足して記載した。

昨年度：横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

今年度：横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

(3) 設問の追加

平成26年度から第2次実施計画がスタートしたことに伴い、第2次実施計画で掲げた重点プログラムの目標のうちアンケートにより推進状況を把握するものについて、関連する内容の設問を設定した。

また、2015年に横須賀製鉄所(造船所)が開設150周年を迎えることから、横須賀製鉄所の認知度に関する設問を併せて設定した。

6 実施時期

平成 26 年（2014 年）4 月 22 日 ～ 5 月 12 日 * 発送日－投函締切日

7 調査の企画・分析

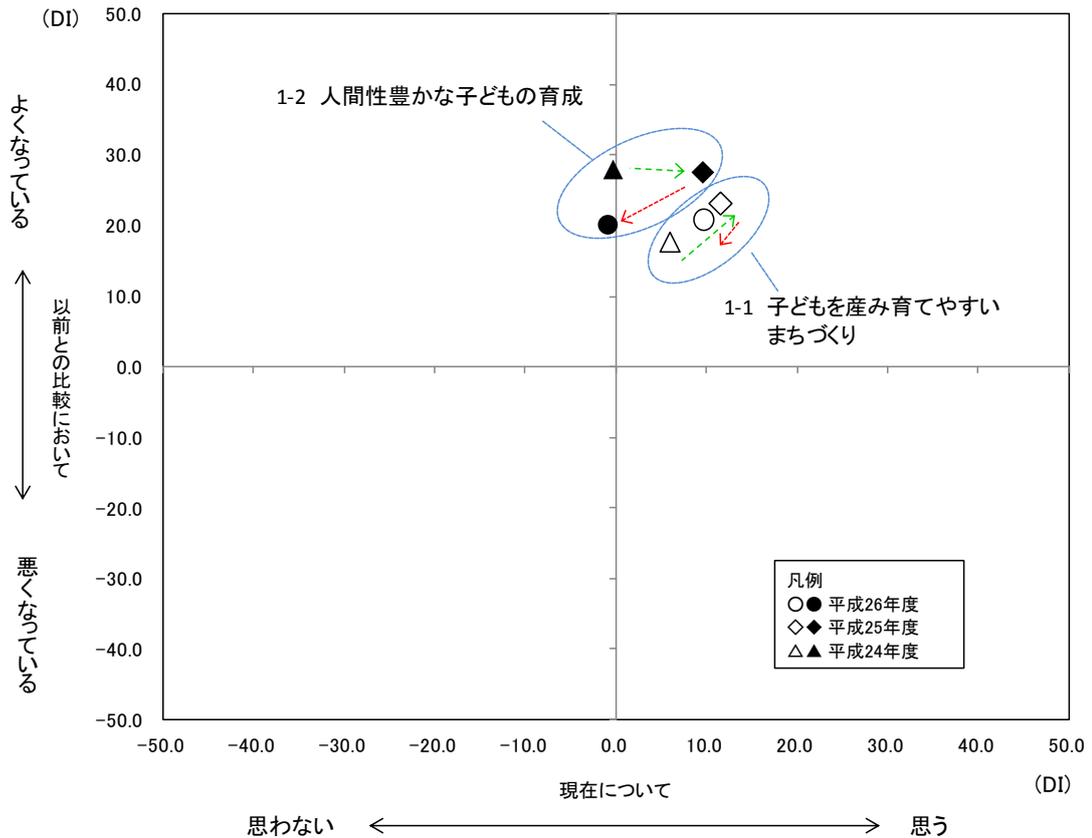
横須賀市都市政策研究所で実施

II 集計結果 –プログラム別の状況–

重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-1 重点プログラム1の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)			
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	▲ 1.8	
	25年度	540	41.3	28.9	29.8	11.5	5.6	
	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	—	
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	▲ 10.5	
	25年度	489	39.7	30.3	30.1	9.6	9.9	
	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)			DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)		
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	▲ 2.4
	25年度	434	41.0	41.2	17.7	23.3	5.5
	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	—
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	▲ 7.4
	25年度	406	39.2	49.3	11.6	27.6	▲ 0.4
	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	—

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度調査からの変化も見られなかった。しかし、前年度調査でそれぞれ約 5.5 ポイント上昇し、そのままほぼ横ばいで推移しており、「以前との比較」では 20 ポイントを超える比較的高い値となっていることから、実感が得られてきている状態といえる。この取り組みの方向性は、政策の優先度が最も高い項目である。(P63 参照)

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
5.9 → 11.5 → 9.7	▲ 1.8 変化なし	17.8 → 23.3 → 20.9	▲ 2.4 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「自然環境の充実」が最も多く挙げられている。次いで多く挙げられた「子育て支援施策や助成等の充実」では、医療費助成（小児医療費助成対象年齢の拡大）についての記載が多く見られた。ほかに、公園などの子育て関連施設や遊び場の充実などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

産科、小児科、総合病院や健診などの「医療体制が不十分（医師数含む）」が突出して多く、この傾向は前年度調査と同様である。ほかに、幼稚園・保育園や学童クラブなどの「子どもを預ける場が不十分」などが多く挙げられている。また、「施策が不十分」として、中学校給食がない点に触れている回答も見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「子育て支援施策や助成の充実」などが多く挙げられている。ここでも、医療費助成（小児医療費助成対象年齢の拡大）についての記載が多く、前年度調査からも増加している。（前年度調査では「産科・小児科などの医療体制や医療費助成等の充実」として構成比 16.0%）

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、産科、小児科、総合病院などの「医療体制が不十分（医師数含む）」が多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP9参照)

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

今回調査のDIは、「現在について」でマイナスに転じており、前年度調査での上昇分（9.9ポイント）を上回っての大幅な低下となった。「以前との比較」のDIも低下しており、平成24年度以降は上昇が見られていないが、約20ポイントのプラス値であり、実感は保たれているとみられる。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
▲ 0.3 → 9.6 → ▲ 0.9	▲ 10.5 大幅に低下	28.0 → 27.6 → 20.2	▲ 7.4 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

市の施策の充実について最も多く挙げられており、「学力向上」として授業日数の増加について触れている記載が見られた。「子どもたちの様子を見て」として、回答者の身近な子どもたちとの交流の中での実感も挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「教育環境が不十分」「施策の具体的な内容が見えない等」が最も多く挙げられている。教育施策が他の施策と比較して市民の目に触れにくいことや、具体的な成果が表れにくいことなどが影響していることも考えられる。また、「施策の考え方・内容・方向性に疑問等」として、施策の内容が人間性の豊かさにつながるかどうか疑問視する声や、施策が広範囲にわたっていることを指摘する声も見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

回答数は多くないが、市の施策の充実が多く挙げられたほか、「学校と地域の連携、地域力の活用、地域交流」などの回答が見られた。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「現在について」と同様に、市の施策の考え方・方向性などに対する疑問が挙げられているほか、家庭におけるしつけやコミュニケーションに触れている回答が見られた。

(回答理由分類についてはP12参照)

2 回答理由分類

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、海・山がある、気候が温暖など自然環境の充実	35	18.1
子育て支援施策や助成等の充実	24	12.4
医療費助成、児童手当	(13)	
保育所定員拡充事業	(2)	
公園、子どもの家、図書館など子育て関連施設や遊び場の充実	17	8.8
子どもを預ける場の充実	16	8.3
幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少	(10)	
学童クラブの充実	(6)	
環境がよい、住みやすい、住み慣れている、困らない、自宅近くで用が済む	16	8.3
産科、小児科、病院など医療体制の充実	8	4.1
治安がよい、安全	8	4.1
地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性、人が多すぎない	8	4.1
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、世代間交流、地域力が高い	7	3.6
人から聞いて、事業内容を見て	6	3.1
教育・文化環境の充実、学校が近い	4	2.1
イベント、講座等の開催	4	2.1
商業施設の充実、買い物しやすい	2	1.0
新港町への公共施設の移転、集約	2	1.0
子どもが増えた、子ども連れの若い親を見かける	2	1.0
周囲の人の子育てを見て、自身の経験から	2	1.0
その他、意見等	7	3.6
産科・小児科が少ない	7	3.6
公園が充実していない	4	2.1
保育園が少ない	3	1.6
小児医療費、手当など助成が不十分	2	1.0
道路・歩道が狭い、整備されていない	2	1.0
小学生以下は過ごしにくい、乳幼児支援はよいが小学生以上が弱い	2	1.0
その他の否定的な回答理由(教育環境が不十分、公共交通が通勤に不便など)	5	2.6
	193	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院、乳幼児健診など医療体制が不十分（医師数を含む）	63	32.3
産科が不十分	(38)	
小児科が不十分	(14)	
子どもを預ける場が不十分	24	12.3
幼稚園・保育園が不十分、待機児童数が多い	(17)	
学童クラブが不十分	(4)	
施策が不十分、特色がない	18	9.2
中学校給食がない	(7)	
医療、出産、保育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	14	7.2
医療費助成	(7)	
公園や遊び場、子育て関連施設の不足、親子で遊ぶ場がない	14	7.2
他都市との比較によるサービスの不足、遅れている	12	6.2
雇用が少ない、女性の職域が少ない、低賃金	5	2.6
学校が遠い、高校が少ない、教育の質が低い、教育環境が不十分	5	2.6
運転、歩きたばこなどマナーが悪い、大人の人間性に疑問	5	2.6
道路・歩道が狭い、段差がある、道路整備が不十分	5	2.6
治安が悪い、風紀がよくない、警察への不満	5	2.6
商業施設が少ない、品揃えがよくない	4	2.1
P R、情報発信が少ない	3	1.5
子どもが少ない、見かけない	3	1.5
物価が高い、税金が高い	3	1.5
地域の間人間関係が希薄、利己的	2	1.0
自然の減少、自然とふれあう場が少ない	2	1.0
基地、原子力空母、核燃料関連施設がある	2	1.0
その他、意見等	5	2.6
公園が多い	1	0.5
	195	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成の充実（費用負担減）	37	36.3
医療費助成、児童手当	(25)	
すかりぶ	(2)	
公園、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実	10	9.8
子どもを預ける場の充実	9	8.8
幼稚園・保育園の充実	(5)	
学童クラブの充実	(4)	
産科、病院など医療体制の充実	8	7.8
子どもや子ども連れの親を見かける、若い世帯の増加	4	3.9
商業施設の充実	3	2.9
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実	3	2.9
駅のエレベータ設置、キッズルーム完備など子ども連れで行ける場所の増加	3	2.9
事業内容を見て	3	2.9
教育環境の充実、学校が近い	2	2.0
イベントの開催	2	2.0
その他、意見等	11	10.8
公園や遊び場が不十分	2	2.0
その他の否定的な回答理由（産科、医療費助成、保育園、情報発信の不足など）	5	4.9
	102	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分（医師数含む）	25	35.2
産科が不十分	(11)	
小児科が不十分	(9)	
施策や助成が不十分、出産・育児体制が整っていない、不安がある	7	9.9
人口減少、少子高齢化、子どもの減少	6	8.5
雇用の減少、企業の減少	6	8.5
公園の整備が不十分、遊び場の不足	3	4.2
自然破壊	3	4.2
子どもが外で遊ぶ姿を見かけない、子ども同士の交流が少ない	3	4.2
住みにくい、魅力がない	3	4.2
子どもを預ける場が少ない、保育園の不足	2	2.8
治安が悪い、安全ではない	2	2.8
その他、意見等	11	15.5
	71	100.0

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	21	22.1
学力向上	(3)	
国際コミュニケーション能力育成 (ALT)	(3)	
朝読書、読み聞かせ	(3)	
子どもたちの様子を見て	11	11.6
元気、いきいきしている、明るい	(4)	
あいさつをしてくれる	(4)	
学校教育の充実、学校施設設備の充実	10	10.5
学校選択制	(2)	
子育て・文化・社会教育施設の充実、公園の整備	8	8.4
自然環境がよい、自然の利活用ができています	7	7.4
地域の子育て・教育支援体制の充実、学校と地域の連携、地域活動、地域交流	6	6.3
事業内容を見て	5	5.3
イベント・講座・公演等の開催	4	4.2
市が熱心、努力が見える	3	3.2
外国人との交流ができる	2	2.1
学べる場が多い	2	2.1
その他、意見等	13	13.7
自然の減少、総合大学がない、大人が熱心すぎる	3	3.2
	95	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
教育環境が不十分	14	15.4
教員の資質がよくない	(3)	
いじめ・不登校がある	(2)	
中学校給食がない	(2)	
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、実行性がない、成果が見えない	14	15.4
施策の考え方・内容・方向性に疑問、重点化されていない、注力していない	11	12.1
子どもたちの資質や様子を見て	10	11.0
あいさつできない	(3)	
思いやりや感謝の気持ちがない	(3)	
市や学校の情報発信不足	6	6.6
公園や遊び場が不十分、親子で過ごす場所がない	5	5.5
大人・親・教員のマナーがよくない、あいさつしない	4	4.4
子どもが外で遊ぶ姿を見かけない、ゲームに夢中	4	4.4
変化を感じない、普通	3	3.3
イベント・講座が少ない、育成や学びの場が少ない	3	3.3
市ができる範囲は限られている、期待していない	3	3.3
保育園、学童クラブ、ランドセル置き場が不十分	2	2.2
その他、意見等	12	13.2
	91	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	16	28.6
学力向上	(4)	
国際コミュニケーション能力育成(ALT)	(2)	
変化が見える、改善されている	6	10.7
学校と地域の連携、地域力の活用、地域交流	4	7.1
子どもたちの様子を見て	3	5.4
子育て・文化・社会教育施設の充実	3	5.4
市の積極性が見える	3	5.4
学校施設設備の充実	2	3.6
その他、意見等	14	25.0
SCが少ない、成果が見えない、人間関係の希薄化、親の二極化など	5	8.9
	56	100.0

※SC：スクールカウンセラー

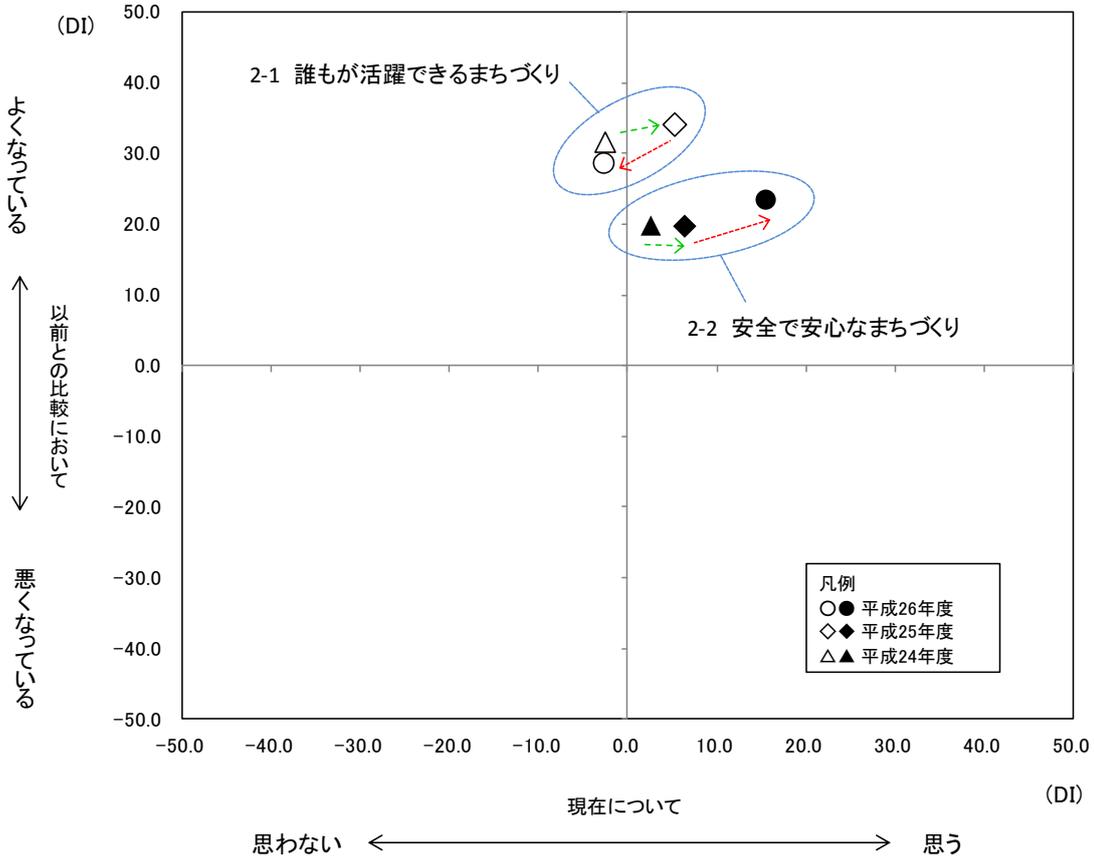
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の考え方・方向性に疑問がある	4	13.8
子どもたちの資質や様子を見て	3	10.3
親が過保護・過干渉、しつけができていない、学校任せ	3	10.3
家族間の会話の減少、大人との関わりの減少、親が疲れる	3	10.3
子ども関係施設が不十分、育成や学びの場が少ない	2	6.9
実行性がない、成果が見えない	2	6.9
子どもが外で遊ぶ姿を見かけない	2	6.9
自然の減少	2	6.9
人口減少	2	6.9
その他、意見等	6	20.7
	29	100.0

重点プログラム2 『命を守る』
 ～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ－2 重点プログラム2の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	▲ 8.0	
	25年度	607	38.1	29.0	32.9	5.2	7.8	
	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	—	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	9.1	
	25年度	703	40.5	25.3	34.1	6.4	3.8	
	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)				(ポイント)	
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	▲ 5.4
	25年度	509	44.4	45.4	10.2	34.2	2.5
	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	—
(2-2) 安全で安心なまちづくり	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	3.8
	25年度	619	37.6	44.4	17.9	19.7	▲ 0.1
	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	—

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」でマイナスに転じており、前年度調査での上昇分（7.8 ポイント）を上回っての低下となった。「以前との比較」の DI も前年度調査と比較して低下しているが、平成 24 年度調査以降、30 ポイント前後のプラス値を維持しており、実感は保たれているとみることできる。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
▲ 2.6 → 5.2 → ▲ 2.8	▲ 8.0 低下	31.7 → 34.2 → 28.8	▲ 5.4 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「高齢者、障害者、健康増進、生涯学習施策の充実、支援体制の整備」として市の施策の充実が多く挙げられている。「ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実」「防災・防犯対策等」など、活躍するための土台となる環境整備に対するものも多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「雇用・求人の減少、工場・企業の減少、賃金の低下」が多く挙げられ、「誰もが活躍できる」という言葉から想起される状況として「雇用の安定」が大きな要素としてあり、回答に影響しているものと考えられる。また、「バリアフリー対策が不十分、歩道が狭い、交通手段がない等」という交通利便性の低さや歩きにくさが挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実」が多く挙げられているほか、「防災・防犯対策等」や「自主防災訓練、市民の防災意識の向上」など、安全・安心に対するものも挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「現在について」と同様に、「雇用の減少、工場・企業の減少」が最も多い。ほかに、地域の人間関係の希薄化や人口減少について挙げられている。

(回答理由分類については P19 参照)

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、実感は得られてきているといえる。特に、「現在について」では約9ポイントの上昇が見られ、平成24年度以降、上昇傾向である。この取り組みの方向性は、政策の優先度が高い項目である。(P63 参照)

現在について			以前との比較			
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)		年度差と状況 (対25年度)
2.6	→	6.4	→	15.5	9.1	↑
19.8	→	19.7	→	23.5	3.8	大きな変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「犯罪・事件の減少、治安がよい」が多く挙げられ、突出している。ほかに、「不安や危険を感じない、安心して生活できている、暮らしやすい」として、住環境のよさや日常生活における安心感が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる」が多く挙げられたほか、「米軍・自衛隊基地、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ」など基地等の施設や放射能に関すること、また有事の際の不安などが多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「犯罪・事件の減少、治安がよい」のほか、「防災、災害対策の充実」「交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、道路整備」などが多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる」など、この取り組みの方向性全体の傾向として、体感治安に関する理由が多く挙げられている。

(回答理由分類については P22 参照)

2 回答理由分類

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者、障害者、健康増進、生涯学習施策の充実、支援体制の整備	23	18.3
高齢者・介護施策	(7)	
障害者施策、特別支援教育	(3)	
生涯学習施策	(2)	
ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実	10	7.9
活躍している、活躍する人・場の増加、周囲の人の様子を見て	8	6.3
子ども・高齢者・障害者が元気	(2)	
防災・防犯対策など安全・安心面の充実	8	6.3
暮らせている、暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	7	5.6
行事・講座の開催、参加者が多い	7	5.6
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て	6	4.8
差別を感じない、差別意識がない人が多い	5	4.0
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	4	3.2
さまざまな活動・活躍の場がある	4	3.2
地域活動が盛ん、市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	4	3.2
検診事業、病院など医療体制の充実	3	2.4
市が熱心、努力が見える	3	2.4
本人の意思があれば活躍できる	3	2.4
地域のつながりがある	3	2.4
高齢者・障害者の外出が多い	3	2.4
交通機関の充実	2	1.6
横須賀の環境（都会と田舎、都会と自然の融合）	2	1.6
その他、意見等	11	8.7
「誰もが」ではない、「誰もが活躍できる」とは思わない	3	2.4
その他の否定的な回答理由（高齢者偏重、障害者への助成が難解・不足など）	7	5.6
	126	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
雇用・求人の減少、工場・企業の減少、賃金の低下	22	16.1
バリアフリー対策が不十分、歩道が狭い、交通手段がない、交通面がよくない	16	11.7
活躍の場が少ない、人材活用の場が少ない	11	8.0
高齢者、障害者、生涯学習施策、支援体制が不十分	10	7.3
「誰もが」ではない、高齢者・障害者・女性・若者が活躍できていない、配慮不足	9	6.6
障害者が活躍できていない	(7)	
雇用の偏り、中高齢者・障害者の雇用が少ない	7	5.1
中高齢者の雇用が少ない	(3)	
障害者の雇用が少ない	(3)	
介護老人福祉施設、障害者支援施設、グループホームなど施設の不足	5	3.6
PR、情報発信不足	5	3.6
地域の間関係が希薄、地域の協力が無い、コミュニティーに課題がある	5	3.6
世間の関心が希薄、弱者には冷たい、理解がない	5	3.6
「誰もが」ということは難しい	5	3.6
人口減少、高齢化、活気がない	5	3.6
差別・偏見がある	4	2.9
他都市と比較して劣っている、他都市と同じ	3	2.2
周囲の人の様子を見て、活躍しているのを見かけない	3	2.2
商店街の衰退、商業施設の減少	3	2.2
市の取り組みが見えない、何もしてくれない	2	1.5
変化を感じない	2	1.5
その他、意見等	12	8.8
ノンステップバス、介護サポーター、活躍する場はある	3	2.2
	137	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実	15	13.0
防災・防犯対策、インフラ整備など安全・安心面の充実	10	8.7
変化が見える、改善されている	10	8.7
高齢者、障害者、生涯学習施策や助成の充実、支援体制の整備	9	7.8
高齢者・介護施策	(3)	
自主防災訓練、市民の防災意識の向上	8	7.0
いきいきしている、活躍していると思う、周囲の人の様子を見て	6	5.2
福祉への理解・意識の向上、やさしくなった	6	5.2
障害者によくなっている	(2)	
活躍する人・場の増加	5	4.3
高齢者の活動	(2)	
障害者の就労場所・就労者の増加	4	3.5
検診事業、病院など医療体制の充実	4	3.5
行事・講座が開催されている、参加者が多い	4	3.5
施設の充実	4	3.5
介護老人福祉施設	(3)	
ボランティア活動で活躍する人の増加、共助の推進	3	2.6
情報発信の充実	2	1.7
暮らせている、暮らしやすい、不自由・不便を感じない	2	1.7
高齢者・障害者の行動範囲の広がり	2	1.7
市の努力が見える	2	1.7
その他、意見等	15	13.0
歩道が狭い、人間関係の希薄化、「誰もが」ではない、不便などところがある	4	3.5
	115	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
雇用の減少、工場・企業の減少	5	16.1
人間関係の希薄化、他人に無関心、共助の衰退	5	16.1
人口減少、若年層の減少	4	12.9
商店街の衰退、商業施設の減少	3	9.7
魅力がない、活気がない、いきいきと暮らせない	3	9.7
高齢化による地域活動の衰退	2	6.5
介護施策、支援体制が不十分	2	6.5
防災、災害対策、市の防災意識が不十分	2	6.5
その他、意見等	5	16.1
	31	100.0

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の減少、治安がよい	60	30.3
身近な事件の減少	(7)	
夜道が安心	(5)	
不安や危険を感じない、安心して生活できている、暮らしやすい	27	13.6
防災、災害対策の充実	19	9.6
崖地・急傾斜地崩壊対策	(6)	
津波・越波対策	(2)	
防災行政無線	(2)	
交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、道路整備	18	9.1
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	15	7.6
子ども見守り隊	(6)	
自主防災訓練	(3)	
地域の間関係のつながり、意識の向上、市民共助	8	4.0
防犯設備、防犯体制の充実	6	3.0
防犯カメラの設置	(3)	
メディア等で悪いニュースを見聞きしない	6	3.0
警察の存在、警察による巡回、自衛隊・米軍の存在	4	2.0
他都市、都市部と比較して	4	2.0
市の努力が見える、取り組みが見える	4	2.0
介護施策、医療体制の充実	3	1.5
まちがきれい	2	1.0
その他、意見等	9	4.5
危険箇所がある、治安が悪い、基地のリスクなど	13	6.6
基地・原子力空母がある、米軍関係の事件	(5)	
防災、災害対策が不十分	(3)	
道路整備が不十分	(2)	
	198	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	38	20.7
横須賀中央の治安が悪い	(4)	
空き巣被害	(4)	
若年層のバイク暴走、夜遊び	(4)	
不審者がいる	(3)	
ひったくり被害	(2)	
米軍・自衛隊基地、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ	36	19.6
防災、災害対策が不十分	16	8.7
崖地・急傾斜地崩壊対策が不十分	(5)	
津波対策が不十分	(2)	
外国人、米軍人の存在、それらによる事件	15	8.2
通学路・歩道・道路の整備が不十分、交通機関の遮断、渋滞	15	8.2
山・崖・トンネルの多さなどによる災害への不安、活断層がある	12	6.5
谷戸での災害時不安	(3)	
事故が多い、交通マナーが悪い、路上駐車が多い	11	6.0
防犯設備、防犯体制が不十分	6	3.3
街灯（防犯灯）が少ない、夜道が暗い	(5)	
人通りが少ない、殺伐としている	4	2.2
警察が対応してくれない、交番に警察官がいない	4	2.2
取り組みが見えない、対策状況がわからない	3	1.6
施策の考え方・内容に疑問がある	3	1.6
情報発信不足	2	1.1
地域関係の希薄化、地域づくりが進んでいない	2	1.1
市民のモラルの低下	2	1.1
その他、意見等	15	8.2
	184	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の減少、治安がよい	28	19.7
外国人（米軍を含む）の犯罪、外国人とのトラブルの減少	(4)	
空き巣の減少	(3)	
暴走族の減少	(2)	
防災、災害対策の充実	23	16.2
崖地・急傾斜地崩壊対策	(6)	
津波・越波対策	(4)	
交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、道路整備	15	10.6
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	13	9.2
子ども見守り隊	(4)	
自主防災訓練	(4)	
防犯設備、防犯体制の充実	7	4.9
街灯（防犯灯）の設置	(4)	
防犯カメラの設置	(2)	
市の努力が見える、取り組みが見える	7	4.9
地域の間関係のつながり、意識の向上、市民共助	6	4.2
改善されている、以前からよい	6	4.2
安心して生活できている、危険を感じない	4	2.8
施策の充実	3	2.1
介護、医療体制の充実	3	2.1
まちが明るい、きれい	3	2.1
メディア等で悪いニュースを見聞きしない	2	1.4
警察による巡回	2	1.4
災害が少ない	2	1.4
米軍・自衛隊の規律保持への努力	2	1.4
インフラの整備・更新	2	1.4
その他、意見等	6	4.2
治安が悪い、災害対策が不十分、米軍の存在、昔の方が安全など	8	5.6
治安が悪い	(3)	
	142	100.0

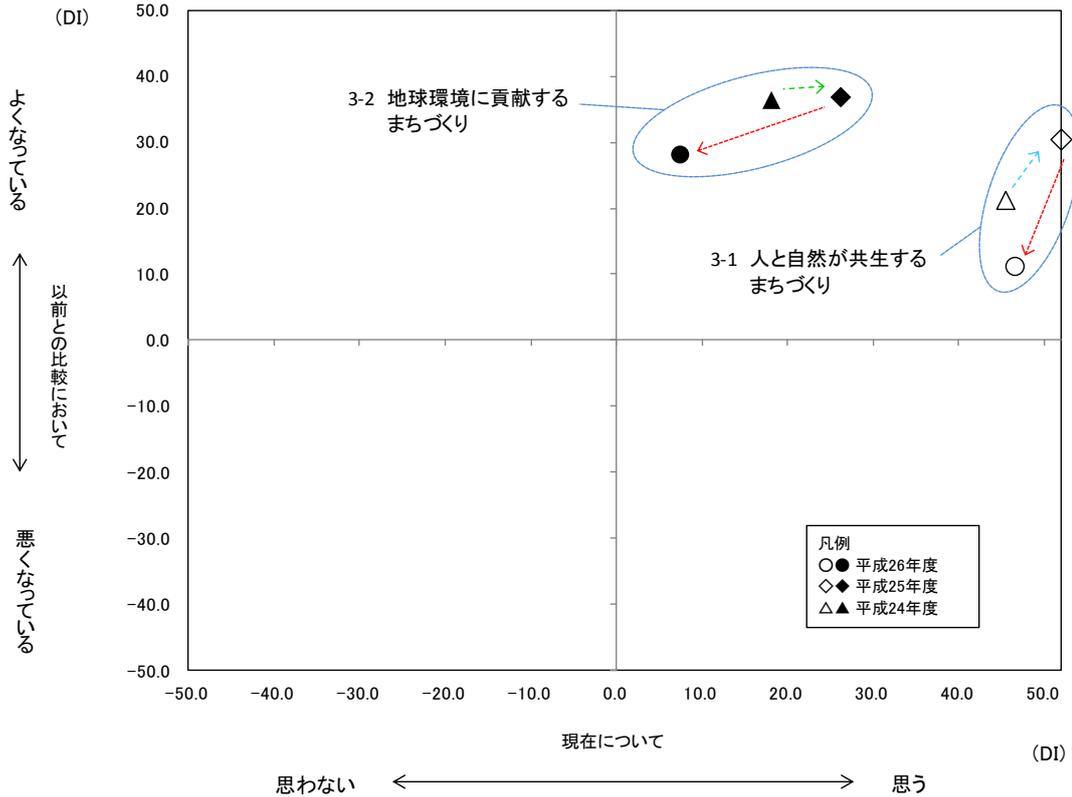
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる	14	23.3
防災、災害対策が不十分	5	8.3
米軍・自衛隊基地、核燃料関連施設がある	4	6.7
警察が対応してくれない、交番に警察官がいない	4	6.7
新港町への救急医療センター、公共施設、商業施設の移転	4	6.7
変化を感じない、以前より悪い	4	6.7
事故が多い、交通マナーが悪い	3	5.0
子どもを安心して一人で外出させられない、夜は心配（以前は心配しなかった）	3	5.0
防犯設備、防犯体制が不十分	2	3.3
市の取り組みが遅い、後手	2	3.3
道路・歩道の整備が不十分	2	3.3
外国人、米軍人の存在	2	3.3
埋立地、急傾斜地への住宅の増加	2	3.3
その他、意見等	9	15.0
	60	100.0

重点プログラム3 『環境を守る』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ－3 重点プログラム3の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	▲ 5.4	
	25年度	686	68.5	14.9	16.6	51.9	6.5	
	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	—	
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	▲ 18.8	
	25年度	616	50.6	25.0	24.4	26.2	8.1	
	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)				(ポイント)	
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	▲ 19.2
	25年度	603	46.6	37.3	16.1	30.5	9.2
	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	—
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	▲ 8.7
	25年度	532	46.6	43.6	9.8	36.8	0.4
	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	—

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、特に「現在について」では値も高く、実感が得られているとみることができる。一方で、前年度調査からはいずれも低下しており、「以前との比較」では20ポイント近い大幅な低下で、平成24年度調査をも10ポイント下回る結果となっている。今後の動向に留意が必要である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
45.4 → 51.9 → 46.5	▲ 5.4 低下	21.3 → 30.5 → 11.3	▲ 19.2 大幅に低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「自然が多い、生物が多い、気候がよい、四季を感じる」など本市の自然環境そのもののよさが突出して多く挙げられ、回答割合も5割を超えており、前年度調査と同様の傾向である。そのほか、市の施策の充実も挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「宅地造成、埋め立て、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化」が突出して多く、その他についても、自然環境の消失という回答が多く見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進」として市の施策の充実が多く挙げられているほか、「公園、海岸線、遊歩道、散歩コースの整備」や自然環境そのもののよさなど、自然に親しめる本市の環境についての回答が見られる。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「宅地造成、埋め立て、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化」「みどり、砂浜、生物など自然の減少、自然破壊」など、「現在について」と同様に、自然環境の消失について多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP29参照)

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスとなったが、前年度調査からはいずれも低下している。特に「現在について」では、20ポイント近い大幅な低下が見られ、平成24年度調査からも10ポイントを上回る低下となっている。

3-1と同様に、全ての取り組みの方向性の中でも高い実感が得られていたところであるが、変化が大きく留意する必要がある。

現在について				以前との比較							
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)				
18.1	→	26.2	→	7.4	▲ 18.8	36.4	→	36.8	→	28.1	▲ 8.7
				大幅に低下					低下		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が突出して多く挙げられているほか、市の施策の充実などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない」など、市の取り組みが目に見えにくいことが多く挙げられている。そのほか、「ごみが多い、分別・不法投棄などマナーが悪い、ごみの回収に問題」などが挙げられている。ごみの回収としては、資源ごみや粗大ごみの回収についての回答が見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、「分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が多く挙げられている。また、市の施策の充実として「EV（電気自動車）」の普及に関する記載が見られた。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊、乱開発」などが挙げられている。

(回答理由分類についてはP31参照)

2 回答理由分類

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、生物が多い、気候がよい、四季を感じる	171	55.2
里山がある、田畑が多い	(4)	
ホテルがいる	(2)	
自然環境の整備・保護、環境政策が進んでいる	28	9.0
エコツアー推進事業	(3)	
都市緑地保全事業	(2)	
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	16	5.2
海・山、公園など自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い	12	3.9
公園、遊歩道、散策コース等の整備	11	3.5
他都市、都市部と比較して自然が多い	8	2.6
開発が少ない	6	1.9
自然を目的とした観光やレジャーができる	6	1.9
まちづくりがよい、環境がよい、暮らしやすい	5	1.6
地場産品に恵まれている	4	1.3
街路樹、花壇などの整備	4	1.3
地域やボランティアの清掃活動が盛ん	2	0.6
農水産業が盛ん	2	0.6
適度に田舎、都会でも田舎でもない	2	0.6
その他、意見等	16	5.2
自然の減少、自然破壊、宅地化、まちなかにみどりがない	8	2.6
自然が活用されていない	2	0.6
その他の否定的な回答理由(不便、海が汚い、ごみが多い、地域活動に限界を感じるなど)	7	2.3
	310	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、埋め立て、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	44	41.9
ごみ処理施設の建設による自然破壊	(2)	
自然の減少、保全が不十分、開発後の緑生がない	16	15.2
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない	6	5.7
自然とふれあえる場所や機会の減少、自然が活用されていない、規制が多い	6	5.7
まちが汚い、不法投棄やごみが目立つ、たばこのポイ捨てが多い	4	3.8
市の取り組みが不十分、放置しているだけ	4	3.8
自然破壊	3	2.9
災害対策が不十分	3	2.9
自然はあるが人と共生できていない、人と自然の分離	3	2.9
空き家の増加	2	1.9
街路樹や公園の樹木の伐採	2	1.9
変化を感じない	2	1.9
その他、意見等	10	9.5
	105	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	20	18.2
公園、海岸線、遊歩道、散歩コースの整備	13	11.8
海・山など自然が多い	12	10.9
開発の減少	6	5.5
市民への意識啓発、意識向上	6	5.5
地産地消の推進	5	4.5
まちなかのみどりや花の増加	4	3.6
自然を生かした施設や取り組みがある	4	3.6
イベントの充実	4	3.6
横須賀の自然のPR、認知度の上昇	4	3.6
再生可能エネルギーの利活用	3	2.7
ごみ拾い、ごみ分別の推進	3	2.7
市が熱心になった、努力が見える	3	2.7
自然とふれあえる機会が多い、自然を身近に感じられる	2	1.8
平成町の埋め立てによる利便性の向上	2	1.8
海・河川がきれい	2	1.8
暮らしやすい、困ったことがない	2	1.8
その他、意見等	11	10.0
崖地の崩壊対策が不十分、宅地造成など	4	3.6
	110	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、埋め立て、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	45	42.1
みどり、砂浜、生物など自然の減少、自然破壊	31	29.0
自然環境の保護・保全、環境施策が不十分	9	8.4
ごみやたばこのポイ捨てなどマナーが悪い	3	2.8
ハイキングコースの減少	2	1.9
その他、意見等	16	15.0
自然があり住むのによい	1	0.9
	107	100.0

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル)	71	45.5
ごみ処理施設の建設	(4)	
環境施策、取り組みの充実	20	12.8
EV(電気自動車)	(4)	
ハイブリッド型バス	(2)	
下水道事業	(2)	
市民への意識啓発、市民の意識向上	9	5.8
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、まちの美化	8	5.1
再生可能エネルギーの利活用	7	4.5
小学生のアイクル見学、環境教育の充実	7	4.5
地域活動、市民活動、ボランティア活動が盛ん	6	3.8
ポイ捨て防止活動・啓発	4	2.6
街路樹、公園の整備	4	2.6
災害がれき受け入れ検討(賛否あり)	2	1.3
楽しく暮らしている、便利で暮らしやすい	2	1.3
事業内容を見て	2	1.3
その他、意見等	9	5.8
ごみやたばこのポイ捨て、再生可能エネルギーの利活用が少ないなど	5	3.2
	156	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	23	20.0
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊	15	13.0
ごみ処理施設の建設による自然破壊	(4)	
ごみが多い、分別・不法投棄などマナーが悪い、ごみの回収に問題	14	12.2
環境施策、取り組みが不十分	9	7.8
歩きたばこ、ポイ捨て	8	7.0
基地、原子力空母、核燃料関連施設がある	7	6.1
地球、まちの環境破壊、自然の減少、自然破壊	5	4.3
他都市と比較して遅れている、他都市と同じ	4	3.5
PR、啓発不足	4	3.5
目立つものがない、事業が当たり前のこと	3	2.6
震災がれき受け入れ(賛否あり)	3	2.6
その他、意見等	19	16.5
エコに力を入れている	1	0.9
	115	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル)	32	32.7
ごみ処理施設の建設	(2)	
ごみの広域処理化	(2)	
環境施策、取り組みの充実	16	16.3
E V (電気自動車)	(8)	
市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん	7	7.1
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少	7	7.1
市の努力が見える、成果が見える	4	4.1
再生可能エネルギーの利活用	4	4.1
変化が見える、改善されている	4	4.1
環境教育の充実	2	2.0
崖地の崩壊対策が進んでいる	2	2.0
国レベルで改善されている	2	2.0
その他、意見等	14	14.3
ポイ捨て、太陽光パネル等の市からの補助が少ない、渋滞など	4	4.1
	98	100.0

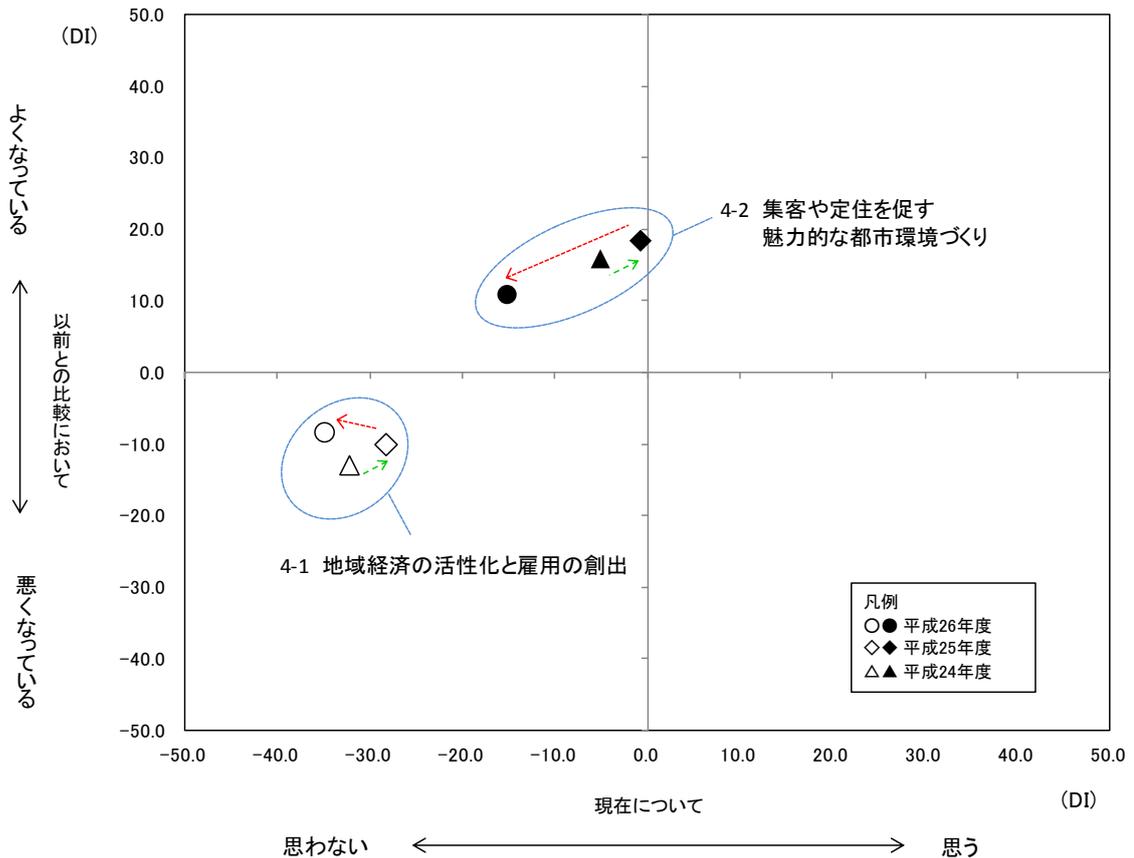
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊、乱開発	9	25.0
環境破壊、自然の減少、自然破壊	6	16.7
取り組みが見えない	3	8.3
環境施策、取り組みが不十分	2	5.6
ごみのポイ捨て、不法投棄	2	5.6
核燃料関連施設がある、放射能への不安	2	5.6
まちが汚い、空気が汚れている	2	5.6
その他、意見等	10	27.8
	36	100.0

重点プログラム4 『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-4 重点プログラム4の取り組みの方向性の状況 (H26-24年度比較)



【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	▲ 6.7
	25年度	628	24.4	22.9	52.7	▲ 28.3	4.0
	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	—
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	▲ 14.4
	25年度	657	37.1	25.0	37.9	▲ 0.8	4.3
	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	—

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	26年度	519	26.4	38.9	34.7	▲ 8.3	1.7
	25年度	557	25.9	38.2	35.9	▲ 10.0	2.9
	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	—
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	26年度	557	33.3	44.3	22.4	10.9	▲ 7.5
	25年度	581	38.9	40.6	20.5	18.4	2.5
	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	—

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにマイナスとなっている。特に「現在について」は前年度調査から低下し、マイナスが大きくなっており、平成24年度調査結果をも下回っている。各年度のDIは、全ての取り組みの方向性の中で最も低く、依然として実感が得られていない状況が続いている。(P55 参照)

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
▲ 32.3 → ▲ 28.3 → ▲ 35.0	▲ 6.7 低下	▲ 12.9 → ▲ 10.0 → ▲ 8.3	1.7 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が多く挙げられ、「イベントの開催」「海軍カレー等」などについての記載が多く、イベントの中では「カレーフェスティバル」を例示したのが見られた。ほかに、市の施策の充実として、「地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ」について多く挙げられた。また、大型商業施設の増加についての記載が見られるようになった。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「働く(働きたい)場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出」「企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、誘致が不十分、産業の衰退」など雇用情勢等の厳しさや産業の衰退・空洞化、「商店街の活気がない、空き店舗の増加」など商業を中心とした地域経済の衰退が多く挙げられた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、観光事業や市の施策の充実が多く挙げられ、イベントや地産地消等に対する印象がよいことがうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、雇用情勢等の厳しさや産業の衰退・空洞化、商業を中心とした地域経済の衰退が多く挙げられた。

(回答理由分類については P37 参照)

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

今回調査のDIは、「現在について」でマイナスとなったが、「以前との比較」ではプラスで10ポイントを超えている。しかし、前年度調査からはいずれも低下し、特に「現在について」では約15ポイントの大幅な低下で、マイナスが大きくなっている。平成24年度調査からも約10ポイントの低下が見られ、現状に対して実感が得られているとはいえない状況である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
▲ 5.1 → ▲ 0.8 → ▲ 15.2	▲ 14.4 大幅に低下	15.9 → 18.4 → 10.9	▲ 7.5 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「イベント、土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が多く挙げられており、イベントでは「カレーフェスティバル」についての記載が見られる。ほかに、市の施策の充実や「マンション、住宅地の開発が進んでいる」などが挙げられている。また、「谷戸、空き家対策」についての回答が見られるようになった。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「魅力的な商業施設がない、商店街の衰退、買い物客等の市外への流出」が多く挙げられているほか、人口減少・流出についての回答が多く見られるようになり、平成26年1月に総務省が出した2013年の人口移動報告の影響も推察される。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、「イベント、土産物など観光事業の充実、観光客の増加」や市の施策の充実、「マンション、住宅地の開発が進んでいる、入居者の増加」などのほか、都市基盤等の整備や交通利便性の向上について挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

市の施策に対する不足感や人口減少等に関するもののほか、「魅力的な商業施設がない、商店街の衰退」「雇用の減少、企業の減少、産業の衰退、企業誘致が不十分」などが多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP39参照)

2 回答理由分類

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	35	37.6
イベントの開催	(9)	
海軍カレー、ネイビーバーガーなど	(8)	
軍港めぐり	(7)	
カレーフェスティバル	(5)	
施策の充実	23	24.7
地産池消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(8)	
企業誘致	(3)	
商店街や事業者への支援	(2)	
地域経済の活性化、大型商業施設の増加	12	12.9
雇用の増加	3	3.2
テレビなどメディアで取り上げられることが多い、知名度の上昇	2	2.2
基地の活用	2	2.2
その他、意見等	7	7.5
商店街の衰退、二極化	5	5.4
その他の否定的な回答理由(家族で利用できる場所が少ない、施策の推進が遅いなど)	4	4.3
	93	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く(働きたい)場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出	68	28.2
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、誘致が不十分、産業の衰退	44	18.3
商店街の活気がない、空き店舗の増加	39	16.2
人口減少・人口流出、少子高齢化	15	6.2
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、寂れている、空洞化	13	5.4
まちの活気がない、活性化していない、まちの衰退、人出が多くない	12	5.0
取り組みが見えない、実行性がない、結果が出ていない	8	3.3
施策が不十分	7	2.9
商業施設の減少、買い物客等の市外への流出	5	2.1
集客事業が不十分、イベントが少ない	4	1.7
まちに魅力がない、面白みや独創性がない	3	1.2
店舗がすぐ変わる	2	0.8
地域差がある	2	0.8
その他、意見等	17	7.1
イベントや土産物はよい	2	0.8
	241	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光できる場所の増加、観光客の増加	24	30.0
イベントの開催	(8)	
海軍カレー、ネイビーバーガーなど	(3)	
軍港めぐり	(2)	
施策の充実	20	25.0
地産池消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(14)	
地域経済の活性化、大型商業施設の増加	9	11.3
雇用の創出・増加、商業施設が増えたことによる雇用の増加	6	7.5
テレビなどメディアで取り上げられることが多い、知名度の上昇	3	3.8
中心市街地の活性化	3	3.8
その他、意見等	12	15.0
雇用が少ない、低賃金、市の努力は見えるが弱い	3	3.8
	80	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、誘致が不十分、産業の衰退	28	20.4
働く（働きたい）場や求人が少ない、労働力人口の流出、雇用政策が弱い	24	17.5
商店街の活気がない、空き店舗の増加	21	15.3
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、寂れている、空洞化	12	8.8
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層が少ない・流出	11	8.0
変化を感じない、改善されていない、後退している	7	5.1
大型商業施設の減少、買い物客等の市外への流出	6	4.4
施策が不十分	5	3.6
まちの活気がない、活性化していない	3	2.2
PR、情報発信不足	2	1.5
交通利便性が低い	2	1.5
空き家の増加	2	1.5
その他、意見等	14	10.2
	137	100.0

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベント、土産物など観光事業の充実、観光客の増加	39	26.9
イベントの開催	(12)	
海軍カレー、ネイビーバーガーなど	(7)	
軍港めぐり	(5)	
カレーフェスティバル	(5)	
施策の充実	11	7.6
地産池消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(5)	
マンション、住宅地の開発が進んでいる	10	6.9
観光・レジャーができる自然や施設がある	9	6.2
横須賀美術館	(3)	
定住施策の充実	8	5.5
谷戸、空き家対策	(5)	
公園、道路等の都市基盤の整備	7	4.8
市の努力が見える	6	4.1
住みやすい、生活に支障がなく便利	5	3.4
テレビなどメディアで取り上げられることが多い、知名度の上昇	4	2.8
定住したいと思う人の増加(自身を含む)	4	2.8
大型商業施設の増加、商業施設の充実	3	2.1
平成町に活気がある	3	2.1
公共施設の充実、生活利便施設の充実	3	2.1
若年層の増加、地元に残る若年層の増加	3	2.1
PRの向上、イメージアップへの注力	2	1.4
豊かな自然環境、空気がよい	2	1.4
その他、意見等	13	9.0
定住促進を感じない、人口減少が止まらない、住みにくい	5	3.4
集客はあるが定住促進はない、施策が定住につながるか疑問	3	2.1
活気がない、買い物客の市外への流出	3	2.1
結果が出ていない、取り組みに地域差がある	2	1.4
	145	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
魅力的な商業施設がない、商店街の衰退、買い物客等の市外への流出	21	10.8
人口減少、転入減・人口流出、少子高齢化、若年層（世帯含む）の減少・流出	21	10.8
施策が不十分	15	7.7
集客、観光、イベントなどの施策が不十分	(6)	
子育て施策が不十分	(3)	
定住施策が不十分	(2)	
魅力的な観光資源・施設・関連店舗が少ない、観光客の減少	15	7.7
階段・道路整備が不十分、公共交通が不便、料金が高いなど交通利便性が低い	15	7.7
雇用の減少、企業の減少、創業支援や企業誘致が不十分、産業の衰退	13	6.7
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、実行性がない	8	4.1
中心市街地に魅力がなく活気がない、人出が多くない	8	4.1
定住を促す魅力的な要素がない、生活利便性が低い、住んでいるメリットがない	7	3.6
魅力がない、独創性がない	7	3.6
地域差がある、一部地域（新住宅地周辺など）しか開発・環境整備されない	6	3.1
不潔、雑然、寂しいなどイメージがよくない、活気や明るさがない	6	3.1
空き家・空き地が多い、活用できていない	5	2.6
横須賀の魅力である自然の破壊、海など景観の悪化、自然を生かしていない	5	2.6
他都市と比較して魅力がない・劣る	5	2.6
変化を感じない、後退している	4	2.1
産科、小児科、総合病院等、医療体制が不十分	3	1.5
PR、情報発信不足	3	1.5
施策の方向性の散漫（集客か定住か絞れていない）	3	1.5
山・坂・谷戸など高齢者に住みにくい	2	1.0
家賃が高い、よい住宅がない	2	1.0
税金が高い	2	1.0
その他、意見等	12	6.2
集客はよい	3	1.5
住みやすい	2	1.0
空き家対策	1	0.5
	194	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベント、土産物など観光事業の充実、観光客の増加	24	22.0
イベント	(7)	
海軍カレー、ネイビーバーガーなど	(4)	
カレーフェスティバル	(2)	
施策の充実	11	10.1
地産池消、ポートマーケット、すかなごっそ	(4)	
マンション、住宅地の開発が進んでいる、入居者の増加	8	7.3
公園、道路等の都市基盤や施設等の整備、交通利便性の向上	8	7.3
市の努力が見える	7	6.4
観光・レジャーができる施設の増加	5	4.6
中心市街地の活性化、人出が多い	5	4.6
PRの向上	3	2.8
平成町に活気がある	3	2.8
谷戸、空き家対策	2	1.8
改善されている	2	1.8
その他、意見等	23	21.1
まだ弱い、まだ魅力的ではない	2	1.8
一部地域のみ、地域差がある	2	1.8
その他の否定的な回答理由（生活環境が改善しない、交通利便性が低いなど）	4	3.7
	109	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策が不十分	13	14.3
定住、子育て施策が不十分	(4)	
集客、観光などの施策が不十分	(3)	
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少	13	14.3
魅力的な商業施設がない、商店街の衰退	11	12.1
雇用の減少、企業の減少、産業の衰退、企業誘致が不十分	10	11.0
階段・道路整備が不十分、公共交通が不便、料金が高いなど交通利便性が低い	8	8.8
魅力がない、独創性がない、まちの将来に期待できない	5	5.5
寂れている、中心市街地が寂れている、雑然としている	4	4.4
地域差がある、一部地域（新住宅地周辺など）しか開発・環境整備されない	4	4.4
定住を促す魅力的な要素がない、生活利便性が低い、住んでいるメリットがない	4	4.4
空き家が多い、谷戸の住環境の悪化	3	3.3
産科、小児科、総合病院等、医療体制が不十分	2	2.2
その他、意見等	13	14.3
気候が温暖で自然災害が少ない	1	1.1
	91	100.0

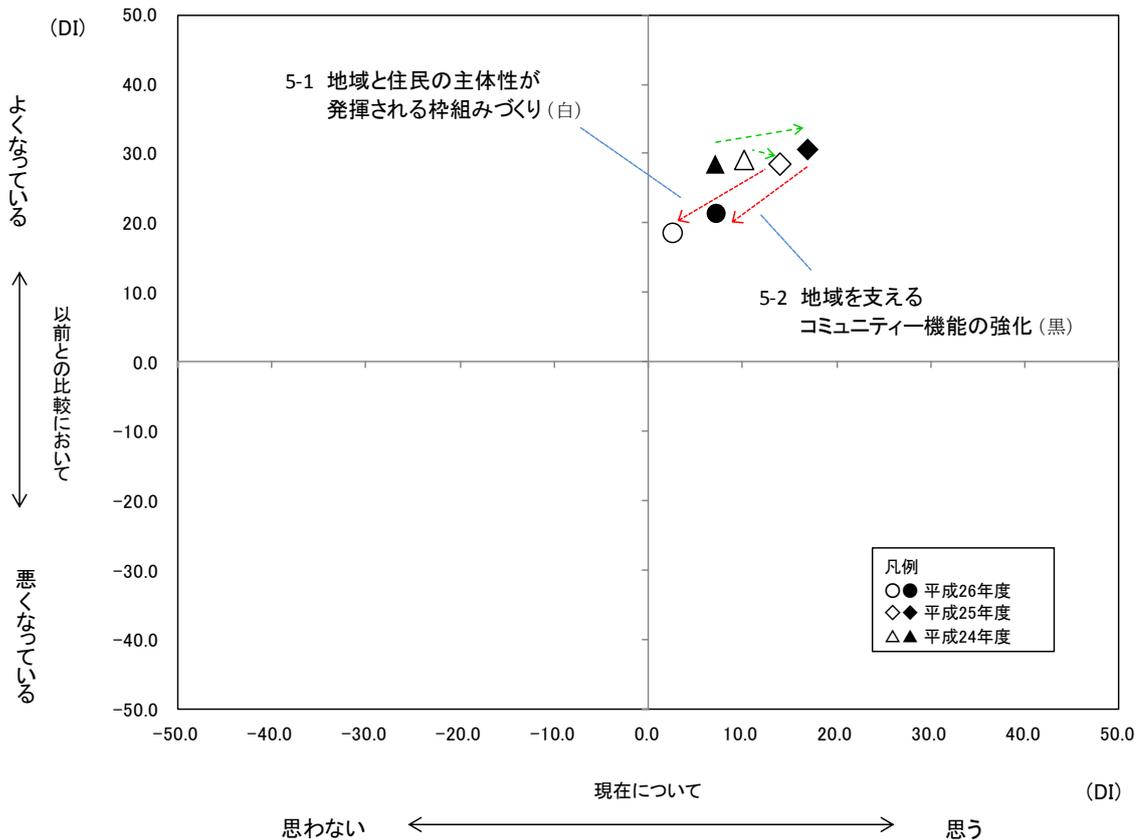
重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・

地域を支えるコミュニティ機能の強化～

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-5 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)			DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)		
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	▲ 11.4
	25年度	578	41.9	30.1	28.0	13.9	3.8
	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	—
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	▲ 9.7
	25年度	591	44.0	28.9	27.1	16.9	9.8
	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	—

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)			DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)		
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	▲ 9.9
	25年度	502	38.0	52.6	9.4	28.6	▲ 0.6
	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	—
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	▲ 9.2
	25年度	498	41.4	47.8	10.8	30.6	2.1
	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	—

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」ともにプラスとなったが、前年度調査からはいずれも10ポイント前後低下している。平成24年度調査結果をも下回っており、一応の実感が得られていた前年度までの状況から変化が見られる。

現在について				以前との比較							
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)				
10.1	→	13.9	→	2.5	▲ 11.4	29.2	→	28.6	→	18.7	▲ 9.9
				大幅に低下					低下		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している」が突出して多く挙げられている。中でも、「子ども見守り隊」「町内会・自治会活動」「クリーン活動」についての記載が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「高齢化と活動の衰退、若年層の減少、世代間断絶、中高年の活動の場がない」など少子高齢化等に伴う影響や、地域の人間関係の希薄化がうかがえる回答が多く見られる。また、「市からの積極的な働きかけがない等」など行政と地域の協働に対する回答や、地域活動等に関する情報が届かないことについての回答も見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している」が多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、少子高齢化等に伴う影響や、地域の人間関係の希薄化などの回答が見られる。

(回答理由分類についてはP47参照)

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスとなっており、各年度の値もいずれもプラスであるため良好な状況を維持しているともいえるが、5-1と同様、前年度調査からはいずれも10ポイント近い低下となっており、動向に留意する必要がある。

現在について			以前との比較										
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)			年度差と状況 (対25年度)						
7.1	→	16.9	→	7.2	▲ 9.7	低下	28.5	→	30.6	→	21.4	▲ 9.2	低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している」が突出して多く挙げられている。ほかに、「コミュニティセンター等施設の建設、利用者の増加、講座等の開催」など活動の場についての回答や、「住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、交流の増加、共助、安心」など地域住民の関係についての回答が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「住民の減少、高齢化や共働きの増加による非活性・衰退、若年層がいない、機能低下」「地域住民を知らない、人間関係が希薄、無関心、他人任せ、参加しない」など、人口減少、少子高齢化等に伴う影響や、地域の人間関係の希薄化がうかがえる回答のほか、「一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い、横のつながりがない」など住民間の連携の弱さについての回答も多く見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している」が最も多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、人間関係の希薄化、人口減少や少子高齢化に伴う影響がうかがえる回答が挙げられている。

(回答理由分類については P49 参照)

2 回答理由分類

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している	76	70.4
子ども見守り隊	(22)	
町内会・自治会活動が活発・機能している	(21)	
クリーン活動	(7)	
防犯パトロール	(3)	
自主防災訓練	(3)	
地域のイベントがある	8	7.4
住民の連携がよい、地域の間関係がよい、交流の増加	5	4.6
市と地域の連携	3	2.8
施策の充実	2	1.9
組織、施設の充実	2	1.9
市民意識の向上	2	1.9
その他、意見等	8	7.4
一部の人にしか伝わっていないなど	2	1.9
	108	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層の減少、世代間断絶、中高年の活動の場がない	11	13.4
地域住民を知らない、人間関係が希薄、無関心、他人任せ、参加しない	9	11.0
市からの積極的な働きかけがない、市民の声が市政に反映されない、一方的	8	9.8
伝わってこない、活動を知らない、参加する方法・機会・場がわからない	7	8.5
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない	6	7.3
施策の方向性に疑問がある、施策が散漫、漠然としている	4	4.9
一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い	4	4.9
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民へのアプローチがない	3	3.7
情報発信不足	3	3.7
地域のイベントや共同事業が少ない	3	3.7
町内会加入者の減少、町内会への強制加入	3	3.7
地域がよくない、住みにくい、核になるよい人材がいない	3	3.7
施策が不十分	2	2.4
地域差がある	2	2.4
変化を感じない	2	2.4
その他、意見等	12	14.6
	82	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している	27	38.6
子ども見守り隊	(10)	
防犯パトロール	(4)	
クリーン活動	(2)	
施策の充実	10	14.3
自治基本条例の検討	(2)	
地域運営協議会の設置	(2)	
地域住民の連携がよい、世代間交流、コミュニケーションの増加	5	7.1
高齢者の活躍の場がある、高齢者が活躍している、元気で明るい	5	7.1
地域が活性化している、世代交代が進んでいる	4	5.7
市の努力が見える、成果が見える	3	4.3
市民意識の向上	2	2.9
組織、施設の充実	2	2.9
コミュニティセンター等の施設利用	2	2.9
その他、意見等	8	11.4
施策に特色がない、高齢化と付随するコミュニケーションの場（商店）の減少	2	2.9
	70	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、活気がない、若年層の減少・流出、高齢者が自己中心的	12	32.4
地域の間人間関係が希薄、無関心、他人任せ	6	16.2
地域のイベントの縮小	3	8.1
活動を知らない、参加する機会がどこにあるかわからない	2	5.4
町内会加入者の減少（町内会費の減少）、地域活動参加者の減少	2	5.4
住民マナーの悪化	2	5.4
町内会・自治会活動が迷惑	2	5.4
その他、意見等	8	21.6
	37	100.0

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している	48	38.7
子ども見守り隊	(5)	
防犯パトロール	(3)	
コミュニティセンター等施設の建設、利用者の増加、講座等の開催	16	12.9
住民の連携がよい、地域の間関係がよい、交流の増加、共助、安心	15	12.1
地域に参加する人の増加、高齢者の活躍、地域団体・市民団体・NPOが活発	12	9.7
地域のイベントの増加	8	6.5
施策の充実	5	4.0
市民意識の向上	3	2.4
情報発信の充実(広報よこすか、回覧版)	2	1.6
その他、意見等	10	8.1
一部の人のみ、世代間交流が少ない、イベントが少ない、駐車場が少ないなど	5	4.0
	124	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
住民の減少、高齢化や共働きの増加による非活性・衰退、若年層がいない、機能低下	21	21.9
地域住民を知らない、人間関係が希薄、無関心、他人任せ、参加しない	15	15.6
一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い、横のつながりがない	12	12.5
活動を知らない、伝わってこない、参加する方法がわからない、場がない	8	8.3
施策が不十分	5	5.2
取り組みが見えない、知らない、市からの積極的な働きかけがない	5	5.2
施設が少ない、コミュニティセンターが利用できない、職員の態度がよくない	5	5.2
地域課題を吸い上げていない、課題に対応していない、実行性がない	4	4.2
施策の方向性に疑問がある、施策が漠然としている	3	3.1
地域住民の調和がない、新住民を受け入れない	2	2.1
町内会加入者の減少、町内会への強制加入	2	2.1
他都市と比較して機能していない	2	2.1
その他、意見等	12	12.5
	96	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん、地域住民が努力している	13	21.3
子ども見守り隊	(3)	
自主防災訓練	(2)	
コミュニティセンター等施設の建設、利用者の増加、講座等の開催	7	11.5
住民の連携がよい、声かけ、共助の推進	6	9.8
地域に参加する人や場の増加	6	9.8
地域のイベントの増加	5	8.2
施策の充実	4	6.6
PR、呼びかけ	2	3.3
地域住民が努力している	2	3.3
その他、意見等	9	14.8
高齢化	3	4.9
その他の否定的な回答理由（一部の人のみ、借家の人の意識が低いなど）	4	6.6
	61	100.0

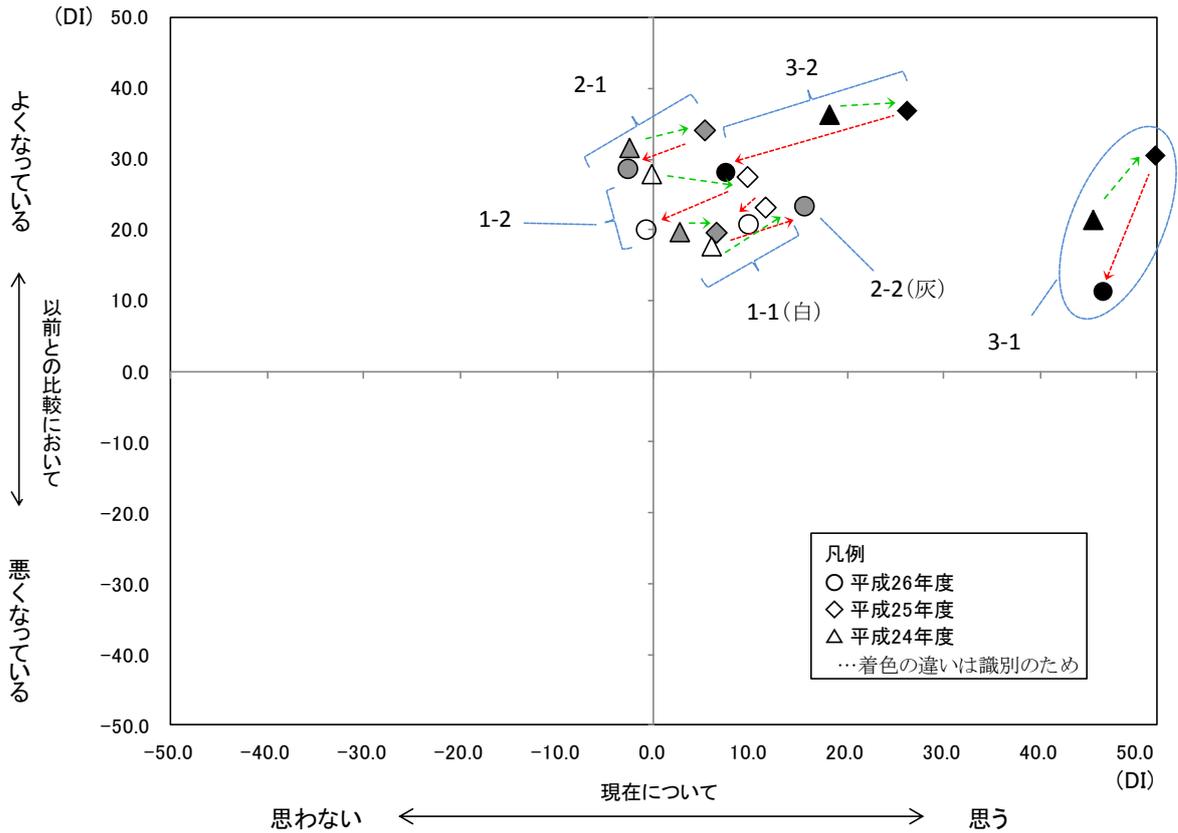
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地域住民を知らない、人間関係が希薄、自己中心的・無関心な人が多い	11	28.9
住民の減少、高齢化や共働きの増加による活動の衰退、若年層がいない、機能低下	10	26.3
施策が不十分	3	7.9
横のつながりがない	3	7.9
取り組みが見えない	2	5.3
参加しにくい、一部の人との集まりできっかけや情報がない	2	5.3
町内会加入者の減少、町内会への強制加入	2	5.3
その他、意見等	5	13.2
	38	100.0

Ⅲ 集計結果 - 重点プログラムの取り組みの方向性別の状況 -

1 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況（プログラム1・2・3）

図表Ⅲ-1 重点プログラム1・2・3の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	▲ 1.8
	25年度	540	41.3	28.9	29.8	11.5	5.6
	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	▲ 10.5
	25年度	489	39.7	30.3	30.1	9.6	9.9
	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	▲ 8.0
	25年度	607	38.1	29.0	32.9	5.2	7.8
	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	9.1
	25年度	703	40.5	25.3	34.1	6.4	3.8
	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	▲ 5.4
	25年度	686	68.5	14.9	16.6	51.9	6.5
	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	▲ 18.8
	25年度	616	50.6	25.0	24.4	26.2	8.1
	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6

【以前との比較】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている	DI (a)-(b)	前年度比
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	▲ 2.4
	25年度	434	41.0	41.2	17.7	23.3	5.5
	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	▲ 7.4
	25年度	406	39.2	49.3	11.6	27.6	▲ 0.4
	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	▲ 5.4
	25年度	509	44.4	45.4	10.2	34.2	2.5
	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0
(2-2) 安全で安心なまちづくり	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	3.8
	25年度	619	37.6	44.4	17.9	19.7	▲ 0.1
	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	▲ 19.2
	25年度	603	46.6	37.3	16.1	30.5	9.2
	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	▲ 8.7
	25年度	532	46.6	43.6	9.8	36.8	0.4
	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3

【調査結果のポイント】

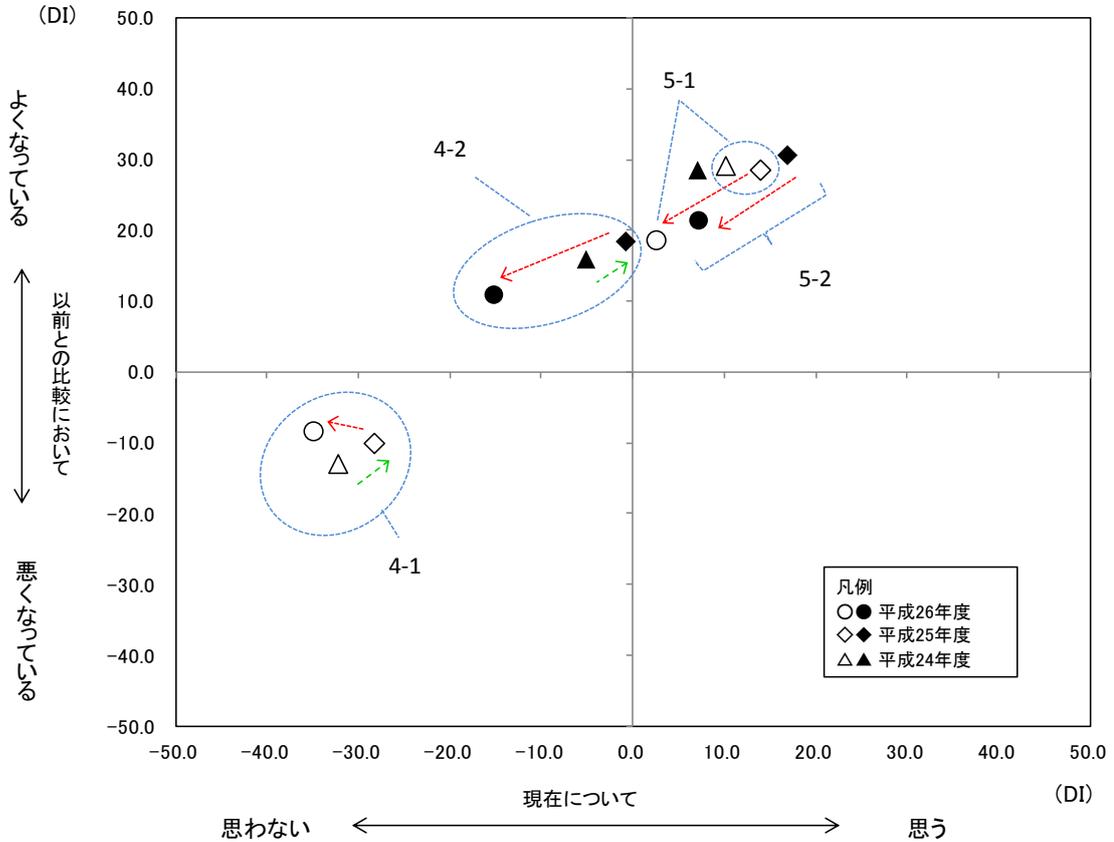
- ・今回調査では、「1-2 人間性豊かな子どもの育成」「2-1 誰もが活躍できるまちづくり」の「現在について」のDIが再びマイナスに転じた。（前年度調査でプログラム1～3全ての取り組みの方向性のDIがプラスとなっていた）
- ・「3-1 人と自然が共生するまちづくり」は、「現在について」でDIが高く、良好な状況を維持しているといえるが、「以前との比較」ではプログラム1～3の全ての取り組みの方向性で最も低い。
- ・前年度調査との比較では、「2-2 安全で安心なまちづくり」の「現在について」で唯一、上昇が見られた。
- ・これについては、「2-2 安全で安心なまちづくり」は、前年度調査において、プログラム1～3の取り組みの方向性の中で唯一、「現在について」の上昇が見られず（平成24年度調査結果との差が5ポイント以下）、「現在について」「以前との比較」ともに低下していた影響も推察される。
- ・プログラム3の2つの取り組みの方向性（3-1「以前との比較」、3-2「現在について」と、「1-2 人間性豊かな子どもの育成」のDIの低下が比較的大きく、留意する必要がある。

【DIの状況 平成26年度-24年度】

各プログラムの取り組みの方向性	現在について		以前との比較	
	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	5.9 → 11.5 → 9.7	▲ 1.8 変化なし	17.8 → 23.3 → 20.9	▲ 2.4 変化なし
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	▲ 0.3 → 9.6 → ▲ 0.9	▲ 10.5 大幅に低下	28.0 → 27.6 → 20.2	▲ 7.4 低下
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	▲ 2.6 → 5.2 → ▲ 2.8	▲ 8.0 低下	31.7 → 34.2 → 28.8	▲ 5.4 低下
(2-2) 安全で安心なまちづくり	2.6 → 6.4 → 15.5	9.1 上昇	19.8 → 19.7 → 23.5	3.8 大きな変化なし
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	45.4 → 51.9 → 46.5	▲ 5.4 低下	21.3 → 30.5 → 11.3	▲ 19.2 大幅に低下
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	18.1 → 26.2 → 7.4	▲ 18.8 大幅に低下	36.4 → 36.8 → 28.1	▲ 8.7 低下

2 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況（プログラム4・5）

図表Ⅲ－2 重点プログラム4・5の取り組みの方向性の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	▲ 6.7	
	25年度	628	24.4	22.9	52.7	▲ 28.3	4.0	
	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8	
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境 づくり	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	▲ 14.4	
	25年度	657	37.1	25.0	37.9	▲ 0.8	4.3	
	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6	
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	▲ 11.4	
	25年度	578	41.9	30.1	28.0	13.9	3.8	
	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2	
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	▲ 9.7	
	25年度	591	44.0	28.9	27.1	16.9	9.8	
	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5	

【以前との比較】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)				(ポイント)	
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている	DI (a)-(b)	前年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	26年度	519	26.4	38.9	34.7	▲ 8.3	1.7
	25年度	557	25.9	38.2	35.9	▲ 10.0	2.9
	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	3.9
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境 づくり	26年度	557	33.3	44.3	22.4	10.9	▲ 7.5
	25年度	581	38.9	40.6	20.5	18.4	2.5
	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	▲ 2.4
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	▲ 9.9
	25年度	502	38.0	52.6	9.4	28.6	▲ 0.6
	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	▲ 9.2
	25年度	498	41.4	47.8	10.8	30.6	2.1
	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3

【調査結果のポイント】

- ・今回調査では、プログラム5の2つの取り組みの方向性は、「現在について」「以前との比較」ともにDIがプラスで、この結果は過年度の調査においても同様である。
- ・プログラム4の取り組みの方向性では、「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」のDIが「現在について」「以前との比較」ともにマイナスが大きく、実感が得られていない状況が続いている。
- ・また、「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の「現在について」のDIのマイナスも大きく、留意する必要がある。
- ・前年度調査との比較では、プログラム4・5の全ての取り組みの方向性で上昇が見られず、4-2、5-1、5-2は「現在について」「以前との比較」いずれも低下している。

【DIの状況 平成26年度－24年度】

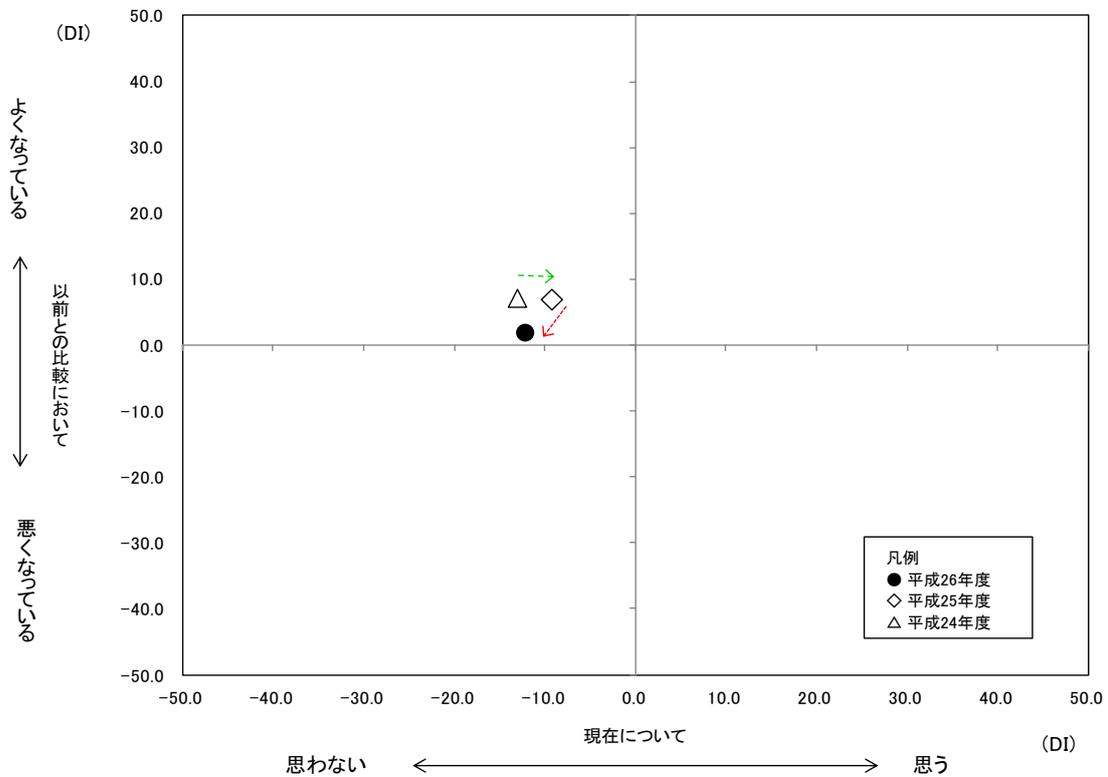
各プログラムの取り組みの方向性	現在について		以前との比較	
	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	▲ 32.3 → ▲ 28.3 → ▲ 35.0	▲ 6.7 低下	▲ 12.9 → ▲ 10.0 → ▲ 8.3	1.7 変化なし
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり	▲ 5.1 → ▲ 0.8 → ▲ 15.2	▲ 14.4 大幅に低下	15.9 → 18.4 → 10.9	▲ 7.5 低下
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	10.1 → 13.9 → 2.5	▲ 11.4 大幅に低下	29.2 → 28.6 → 18.7	▲ 9.9 低下
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	7.1 → 16.9 → 7.2	▲ 9.7 低下	28.5 → 30.6 → 21.4	▲ 9.2 低下

IV 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について

重点プログラムの狙いである「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための都市力（都市の魅力）を備えているまち」に対しての実感を尋ねた。

1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向

図表IV-1 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H26-24年度比較）



【現在について】

調査年度	件数(人)	(%)					①+② (a)		④+⑤ (b)		(ポイント)	
		①思う	②やや思う	③どちらともいえない	④あまり思わない	⑤思わない	DI (a)-(b)	前年度比				
26年度	616	11.5	19.5	25.8	27.8	15.4	31.0	43.2	▲ 12.2	▲ 2.9		
25年度	630	11.1	20.3	27.8	24.4	16.3	31.4	40.7	▲ 9.3	3.8		
24年度	671	11.2	19.2	26.1	26.2	17.3	30.4	43.5	▲ 13.1	—		

【以前との比較】

調査年度	件数(人)	(%)					①+② (a)		④+⑤ (b)		(ポイント)	
		①よくなっている	②どちらかというよくなっている	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている	⑤悪くなっている	DI (a)-(b)	前年度比				
26年度	530	5.3	22.5	46.4	15.5	10.4	27.8	25.9	1.9	▲ 5.1		
25年度	550	7.3	23.3	45.8	14.9	8.7	30.6	23.6	7.0	▲ 0.2		
24年度	561	6.4	23.5	47.4	14.1	8.6	29.9	22.7	7.2	—		

○今回調査の DI は、「現在について」で約 12 ポイントのマイナス値となっている。「以前との比較」はプラスであるものの、その値は小さい。前年度調査との比較では、変化が大きくはなく、「以前との比較」で約 5 ポイントの低下となっている。なお、「現在について」「以前との比較」いずれも差がマイナスとなっている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)	DIの推移 (24年度 → 25年度 → 26年度)	年度差と状況 (対25年度)
▲ 13.1 → ▲ 9.3 → ▲ 12.2	▲ 2.9 変化なし	7.2 → 7.0 → 1.9	▲ 5.1 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「都市力を備えていると思う、可能性がある、成長している、魅力がある」という横須賀の都市力や今後の発展可能性を挙げた回答が最も多く挙げられている。ほかに、「豊かな自然環境、温暖な気候、自然とまちの融合、首都圏ながら自然がある」など本市の特性や、「都市部に近い、交通利便性が高い」「他にはない魅力を活用した集客、イベント、観光資源が豊富、知名度がある」なども挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

市の施策の不足感について多く挙げられたほか、「雇用の減少、企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」「人口減少・人口流出、少子高齢化、子育て世代の流出、空き家の増加」などが多く挙げられている。また、「魅力がない」「都市間競争に勝てる特色がない」「他都市と比較して劣る」など厳しい回答も見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

市の施策の充実や取り組み状況に対する回答のほか、「道路整備、交通網の拡大など交通利便性の向上、都市部に近い」などが挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出、空き家の増加」が最も多く挙げられているほか、上記と同様に、市の施策に対するもの、雇用の減少、企業の減少、また「商業施設の減少、商店街の空き店舗の増加、買い物客の市外流出」などの回答も挙げられている。

(回答理由分類については次頁参照)

2 回答理由分類

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
都市力を備えていると思う、可能性がある、成長している、魅力がある	28	16.8
豊かな自然環境、温暖な気候、自然とまちの融合、首都圏ながら自然がある	19	11.4
都市部に近い、交通利便性が高い	12	7.2
他にはない魅力を活用した集客、イベント、観光資源が豊富、知名度がある	12	7.2
施策の充実	8	4.8
子育て施策の充実（医療費助成）	(1)	
医療体制の充実	(1)	
地産地消	(1)	
人口が多い、転入者の増加、開発、市内の定住率が高い、子どもの増加	8	4.8
市の努力が見える、頑張っている	6	3.6
歴史、豊富な文化資産	6	3.6
生活利便性が高い、不便を感じない、住みやすい、住み続けたい	5	3.0
地域活動が盛ん、地域の連携、市民が優しい	5	3.0
施設の充実、インフラの整備・更新、バリアフリー化	5	3.0
地理的条件がよい	4	2.4
環境がよい、環境は整っている	4	2.4
商業施設の充実	3	1.8
基地の存在	2	1.2
活気がある、まちが明るい、きれい	2	1.2
その他、意見等	19	11.4
施策・取り組みが不十分	9	5.4
子育て施策が不十分	(3)	
雇用対策が不十分	(3)	
情報発信の不足	3	1.8
商業施設の減少・魅力がない	2	1.2
その他の否定的な回答理由（住民のコミュニケーション不足、活気がないなど）	5	3.0
	167	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策が不十分	37	19.2
出産、子育て施策や助成が不十分	(6)	
教育・文化環境が不十分	(6)	
若年層が定住したいと思う施策が不十分、定住できる環境ではない	(5)	
高齢者など福祉施策が不十分	(3)	
産科、病院など医療体制が不十分	(3)	
観光事業が不十分、特色ある観光資源がない	(3)	
防災、災害対策が不十分	(1)	
自然を活用できていない	(1)	
雇用の減少、企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	26	13.5
人口減少・人口流出、少子高齢化、子育て世代の流出、空き家の増加	20	10.4
魅力がない	10	5.2
都市力を備えていると思わない、成長がない、発展性がない	9	4.7
取り組みが見えない、成果が見えない	8	4.1
横須賀を代表するものがない、都市間競争に勝てる特色がない、他都市の真似	7	3.6
商業施設の減少、商店街の空き店舗の増加、買い物客の市外流出	7	3.6
交通利便性が低い、都市部から遠い、道路整備が不十分	7	3.6
中心市街地の非活性、活気がない、人出が多くない、衰退	6	3.1
他都市と比較して劣る	6	3.1
P R、情報発信不足、発信力が弱い	5	2.6
若年層に魅力ある場所がない	5	2.6
ベッドタウン、マンションばかり多い	4	2.1
地理的条件が悪い	3	1.6
施策の方向性に疑問がある	3	1.6
生活利便性が低い、市内で用が足せない	2	1.0
公園や遊び場、子ども関係施設が不十分	2	1.0
治安が悪い	2	1.0
新港町への公共施設の移転	2	1.0
税金が高い、物価が高い	2	1.0
その他、意見等	20	10.4
	193	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	20	27.4
集客・観光事業の充実、観光スポットの増加	(8)	
子育て施策の充実	(3)	
福祉施策の充実	(1)	
谷戸対策	(1)	
よい方向に向かっている、以前より向上している	10	13.7
市の努力が見える、積極性が見える	7	9.6
道路整備、交通網の拡大など交通利便性の向上、都市部に近い	5	6.8
住民自治や市民の市政への参加	4	5.5
商業施設の充実、買い物しやすい	4	5.5
PRの向上、知名度の上昇	2	2.7
施設や公園の整備	2	2.7
基地の存在、基地との交流	2	2.7
生活利便性の向上、環境が整っている	2	2.7
その他、意見等	12	16.4
情報発信不足、企業の減少、地域の間関係が希薄	3	4.1
	73	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出、空き家の増加	23	21.5
施策が不十分	17	15.9
産科、病院など医療体制が不十分	(4)	
自然を活用できていない、自然破壊	(3)	
高齢者など福祉施策が不十分	(2)	
教育環境が不十分	(2)	
施設・道路整備・バリアフリー化が不十分	(1)	
雇用の減少、企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	13	12.1
商業施設の減少、商店街の空き店舗の増加、買い物客の市外流出	10	9.3
中心市街地の非活性、活気がない、人出が多くない	7	6.5
魅力がない、幸福感がない	5	4.7
後退・衰退している	5	4.7
交通利便性が低い、都市部から遠い	4	3.7
他都市と比較して劣る	3	2.8
市の努力が見えない、気概を感じない	2	1.9
施策の方向性に疑問がある	2	1.9
新港町への公共施設等の移転・集約	2	1.9
その他、意見等	14	13.1
	107	100.0

V 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）

－ 優先して取り組むべき政策について －

「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきか」について、重点プログラムを構成する10項目の取り組みの方向性と「その他」の選択肢を設け尋ねた。

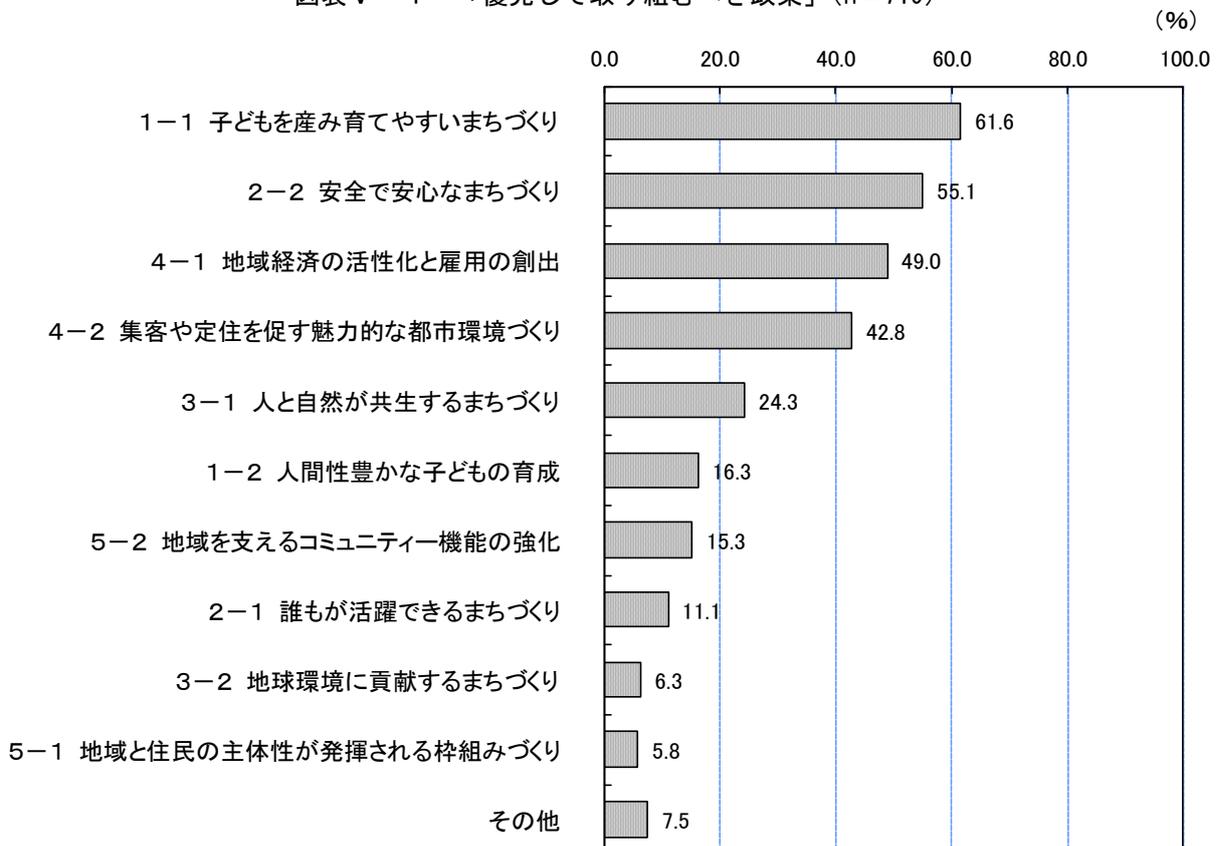
（複数回答3つまで）

1 優先して取り組むべき政策の傾向

（1）26年度調査結果

- ・「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の回答割合が最も高く（61.6%）、次いで「2-2 安全で安心なまちづくり」（55.1%）、「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」（49.0%）が選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択されている。その値は次に多い「2-2 安全で安心なまちづくり」の2倍以上で、突出している。

図表V-1 「優先して取り組むべき政策」（n=719）



※その他には、市への個別具体的な要望等が多く含まれている（P66 参照）

図表 V-2 「優先して取り組むべき政策」(選択順位別)

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム1	(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	443	61.6	292	40.6	89	12.6	62	8.9
	(1-2)人間性豊かな子どもの育成	117	16.3	33	4.6	53	7.5	31	4.4
プログラム2	(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	80	11.1	23	3.2	31	4.4	26	3.7
	(2-2)安全で安心なまちづくり	396	55.1	145	20.2	161	22.8	90	12.9
プログラム3	(3-1)人と自然が共生するまちづくり	175	24.3	27	3.8	85	12.0	63	9.0
	(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	45	6.3	6	0.8	23	3.3	16	2.3
プログラム4	(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	352	49.0	108	15.0	124	17.6	120	17.2
	(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	308	42.8	54	7.5	98	13.9	156	22.4
プログラム5	(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	42	5.8	3	0.4	15	2.1	24	3.4
	(5-2)地域を支えるコミュニティ機能の強化	110	15.3	11	1.5	21	3.0	78	11.2
その他		54	7.5	17	2.4	6	0.8	31	4.4
回答数(n)				719	100.0	706	100.0	697	100.0

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

※着色は選択順位別の上位3項目

(2) 26年度-24年度調査結果

- ・平成24年度調査以降、全体的に回答割合に大きな差は見られない。
- ・前年度調査と比較して、2位の「2-2 安全で安心なまちづくり」、3位の「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」の差がマイナスとなっている。
- ・これら以外では、「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」がやや増加している。(2年続けての増加傾向)

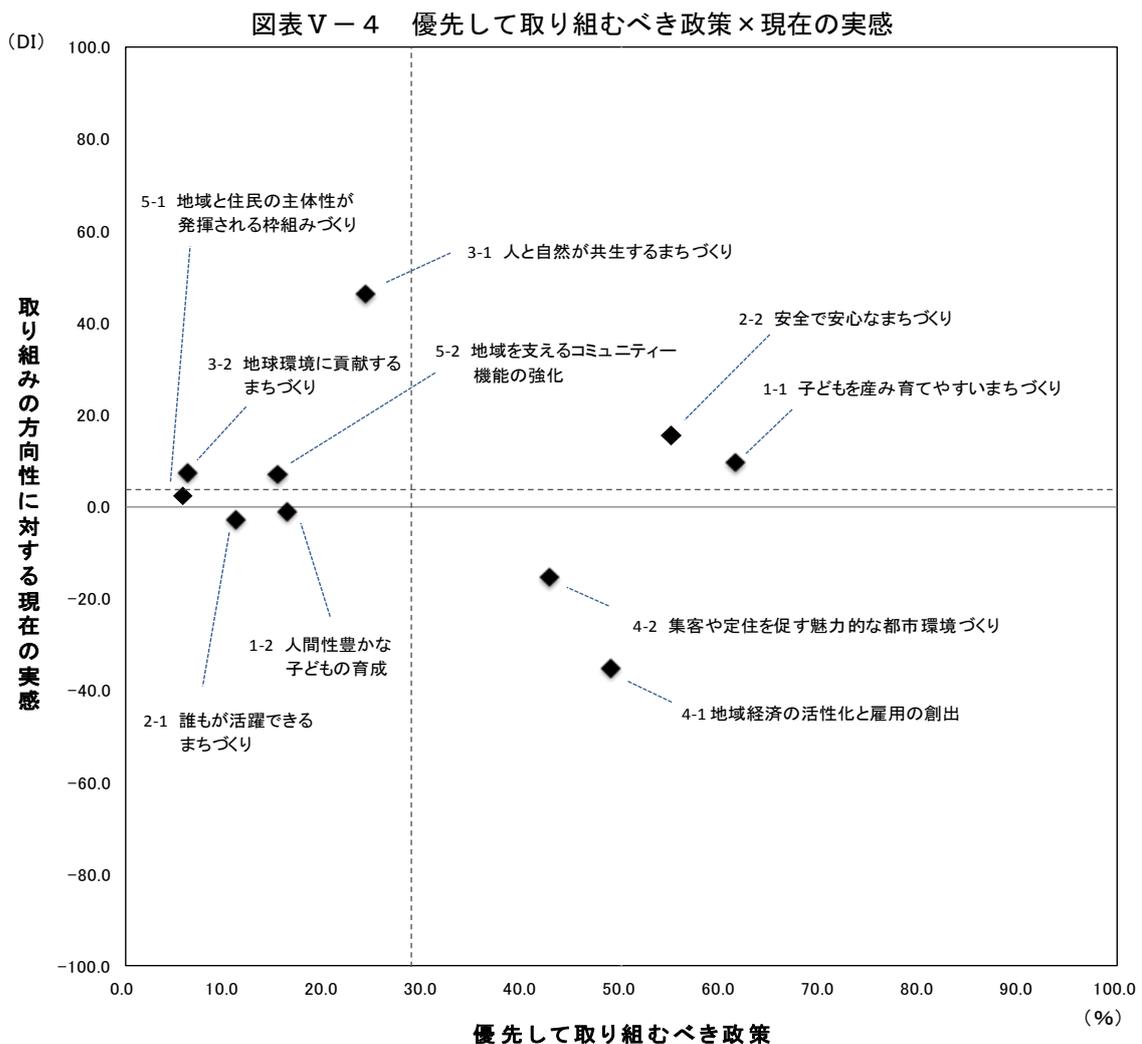
図表 V-3 「優先して取り組むべき政策」の回答割合(H26-24年度比較)

取り組みの方向性	26年度(n=719)		25年度(n=698)		24年度(n=765)		26-25年度比	25-24年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	1	61.6	1	58.7	2	57.6	2.9	1.1
(2-2)安全で安心なまちづくり	2	55.1	2	57.6	1	58.8	▲2.5	▲1.2
(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	3	49.0	3	51.6	3	49.9	▲2.6	1.7
(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	42.8	4	38.5	4	36.2	4.3	2.3
(3-1)人と自然が共生するまちづくり	5	24.3	5	23.5	5	24.1	0.8	▲0.6
(1-2)人間性豊かな子どもの育成	6	16.3	6	20.6	6	19.9	▲4.3	0.7
(5-2)地域を支えるコミュニティ機能の強化	7	15.3	8	12.2	8	13.5	3.1	▲1.3
(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	8	11.1	7	15.2	7	13.9	▲4.1	1.3
(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	9	6.3	9	7.7	9	7.5	▲1.4	0.2
(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	10	5.8	10	4.7	9	7.5	1.1	▲2.8
その他	—	7.5	—	5.6	—	5.5	1.9	0.1

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感

- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」のDIが平均値より低い項目は、プログラム4を構成する取り組みの方向性の2つとなった。
- ・プログラム1を構成する取り組みの方向性は、いずれも「現在の実感」のDIが平均値に近いが、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が大きく異なり、「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」は全政策の中で最も優先度が高い。一方、「1-2 人間性豊かな子どもの育成」は平均値を下回っている。
- ・同様に、プログラム2を構成する取り組みの方向性でも「2-2 安全で安心なまちづくり」は優先度が2番目に高いが、「2-1 誰もが活躍できるまちづくり」は平均値を下回っている。
- ・プログラム3を構成する取り組みの方向性は、いずれも「現在の実感」のDIが平均値より高く、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低くなった。
- ・全体として「現在の実感」の平均値（Y軸）に低下が見られる。（H25：11.3→ H26：3.5）



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感 (DI)」それぞれの平均値を示したもの (X=28.5 Y=3.5)

平均値の推移： 24年度 (X=28.9 Y=4.9) 25年度 (X=29.0 Y=11.3)

3 自由記述回答 ※選択肢⑩その他 自由記述

主な回答（自由記述） (n=55)
横須賀＝どぶ板のイメージを払拭するか、かえって逆手にとってミュージアムでも作り、過去の歴史のほんの一つであることを強調し、横須賀のイメージを「自然豊かで住みやすいまち」に変えるべきだと思う。
人口は横ばいでも横須賀市の良さを生かしていけば良いのではないかな。
他の都市にはないアピールポイントを明確につくる。
全国的にもっと横須賀を知ってもらい来てもらわなければならない。そのための方策を熟考し、その先に、ここに住み子どもを産み育てる、があるのではないかな。
横須賀のイメージは“軍港のまち”。イベントも多く、市内で楽しめるのは強みだと感じる。平成町は明るいイメージだが、横須賀中央を含め、商店街やまちが整備不足で、暗く感じるので区画整理などで整備をした方がよい。（市内では十分な買い物ができないので毎度横浜まで皆が出ている。）
観光事業に力を入れる。（スカリンをメジャーゆるキャラに！）
海洋レジャーで市外から客を呼ぶ。安いマリナーをつくる。（車の駐車場ぐらの料金でとめられる所、小船を数多くとめられるようにする。）
浦賀ドックの開発
横須賀を知る～のバーベQ大会（若者向け）、安近短バスツアー（子ども向け、お年寄り向け）
若い世代が定住しやすいうように土地の価格を下げたり、固定資産税を下げたりして、子育て環境も充実させてほしい。
難しいこととは思いますが、横須賀市に住むと“このような特典がある”というものをつくっていったら良いと思う。埼玉県のある市では、子育て中（子の年齢制限あり）の方に割引サービスがあるカードが配布されているようだ。とても魅力的だと思った。
子どもがいない家庭への支援（子どもがほしいが、授からない人へのヒアリング）
他の全ての施策は中止してでも、例えば、3人目の子は子育て費用は全て市が負担するとか思いきった重点的かつ直接的施策が必要だろう。3人以上子育てしたくなるようにするには何が一番効果的か、子育て中の父母に聞くのが一番だろう。
行政はもっと積極的に人口が増加している市や、過疎化が止まり若者の流入が増えたまちなどを視察した方がよい。もう少し民間のようにプロセスより結果を重視して。
高齢化が進んでいる。団地に福祉施設を、夫婦が働ける雇用を作る。子どもが安心できる場所を作る。不要な行政はつぶして、しっかりとお金を使ってほしい。とにかく、むだな行政は必要ない。市職員も見直す必要がある。これからは事務だけでなく汗を流せ。
少子化はなぜ起きているのか良く考えて、女性のための市政をしてほしい。
大学などの誘致、若年層の定着を考えること
サービス業以外の企業、働ける所を増やして若者が地元に残れる環境にしてほしい。
雇用等がなければ、その他のこともついてこない。
勤務地が横須賀にあれば住まい、生活、全てが市内で充実できる。企業誘致が優先
雇用が促進できる企業の誘致
企業の誘致
地元企業の信頼性向上、中央企業が何をしているのか、何が求められているのか、周知し、補助すべき。中央企業からの信頼性の向上なくして横須賀企業の発展なし！！企業の発展なくして、地域の発展なし！！意識の高い企業には補助を厚く！！低い企業は淘汰されるべき！！もう少し競争意識を持つために入札条件・仕様のレベルを上げ、そのための行政も、中央企業の実態を勉強すべき！！弁護士や大学教授等からでなく広く有識者からの意見を聞き、施策に取り入れるべき！！

(次頁に続く)

主な回答（自由記述） (n=55)
交通手段を増やす、都市とのアクセスを良くする。
東地区だけ発展して西地区は取り残されている。西地区の開発をしてほしい。電車、モノレールを通してほしい。
地域交通網の再整備。（坂道の多い地域が多く、高齢者のためにもバス停を増やす等、対策を検討すべし。買い物客が増えれば、各店舗の業績が上がる。）
横須賀市は京浜急行一本のまちで、昔は特急停車駅に皆が選んで住んでいたように思うが、現在最終電車が早いとか本数が少なく東京方面に通勤する人は不便を感じている。そうすると便の良い横浜方面に住居を移してしまうのではないか。個人的には電鉄会社に話はできないが市としては要望を出してくれれば市民がとても喜ぶのではないかと思う。
土建、インフラは、平地のまちより必要性が高いと思う。
歩道の自転車追放策を講ずべし。（育児中のママや高齢者にとっては危険この上ない）
ベッドタウン機能の強化
西部の位置づけをしっかりとしないと、市民意識が上がらないのではないか。「秋谷」「芦名」「佐島」あたりは葉山町意識、「長井」あたりは三浦市民意識になりつつあるから。
横須賀市は目玉となる物が無い。横浜市のように、再開発したみなどみらいのような活性化するまちづくりが必要であると思う。
子どもに限らず、高齢者やサポートが必要な障害を持っている方にとって、十分なサポートをできるようなまちにしてほしい。将来自分が思うように動けなくなった時にも、安心して暮らせるということは、とても重要なことだと思うし、そのようなサポートは必要なことだと思う。大ざっぱな表現で申し訳ないが、「ゆりかごから墓場まで」の安心感が必要だと思う。
横須賀市内で働いたり子育て（通勤・通学）を完結できたりする人は少ないかと思う。新しく住民となるマンション住まいの人にも分かりやすく便利な市民サービスの提供を期待する。（土・日の行事の拡大）マンション住民に対して学童の説明やコミュニティセンターでのイベントの拡充案内など…。良い資源はたくさんあると思う。
若い人が好む施設（ららぽーとやテラスモール、アウトレット他）
魅力的な施設（アウトレット店、ショッピングモール）などの誘致
専門店を置く（住民アンケートを取る）
①活気ある商店街の再構築（ベース頼みではダメ）②巨大ショッピングセンターの誘致 これと既存の漁業と農業を組み合わせた巨大市場の構築 今やっているのは全て、中途半端な代物で、他県他市の人間からみて面白みが全くない。
高齢者に対する福祉的な条例の見直しや対策等
入院患者の3カ月たらい回しは患者の身内として大変つらい。
文化を楽しむ土壌づくり。音楽や本など。文化度を上げる。
スポーツに力を入れる。 ・地域スポーツの充実 ・プロスポーツの誘致 ・横須賀総合高校に体育科コース（野球・サッカー・駅伝を全国区に）
税金の使い道、生活保護受給者などの基準をもっと調査してほしい。
給付の有無による不公平感をなくす。具体的には、高齢者、単身世帯と申告して各種給付を受けながら実際は同居の親族がいるなど、不正と思われる居住実態が多々見受けられる。
学校の体質を良くしてほしい。ずいぶん昔だが、市立中学校で私の子どもが学校側から暴力を受けた。その時の先生方の対応は悪質だった。（学校の面子を守ろうとする。子どもを悪者にする）子どもを守るために夫婦で必死に先生方と闘った。今はこんな職員はいないこととは思うが、教育者の育成には行政としてしっかりやってほしい。

（次頁に続く）

主な回答（自由記述） (n=55)
今後、起こりうる巨大地震の避難場所の確保など。皆が安全に避難場所へ行けるルートを知らせる。
米海軍、海上自衛隊との関係強化
市長を始めとして、市議会議員、職員の意識改革を何より優先する。
<ul style="list-style-type: none"> ・政治から市民へ、市民から政治へ、ちゃんと選挙へ、ちゃんと市民とまちづくりの政策を考えている市議を選出していけば必ず良くなる。 ・高い市民税をなんとか下げてほしい。横須賀市は他市に比べて税金が高い！！
下水道や鳥のフンなど衛生面の強化
ボランティアに任せすぎ。どうせなら皆、市の準職員にする。
国からの独立。ヒモ付の予算には限度がある。
全ての項目が、全てに関連してくると思うので順位をつけるのは難しい。
米軍の場所をなくしてほしい。
全てに関心が全くない。

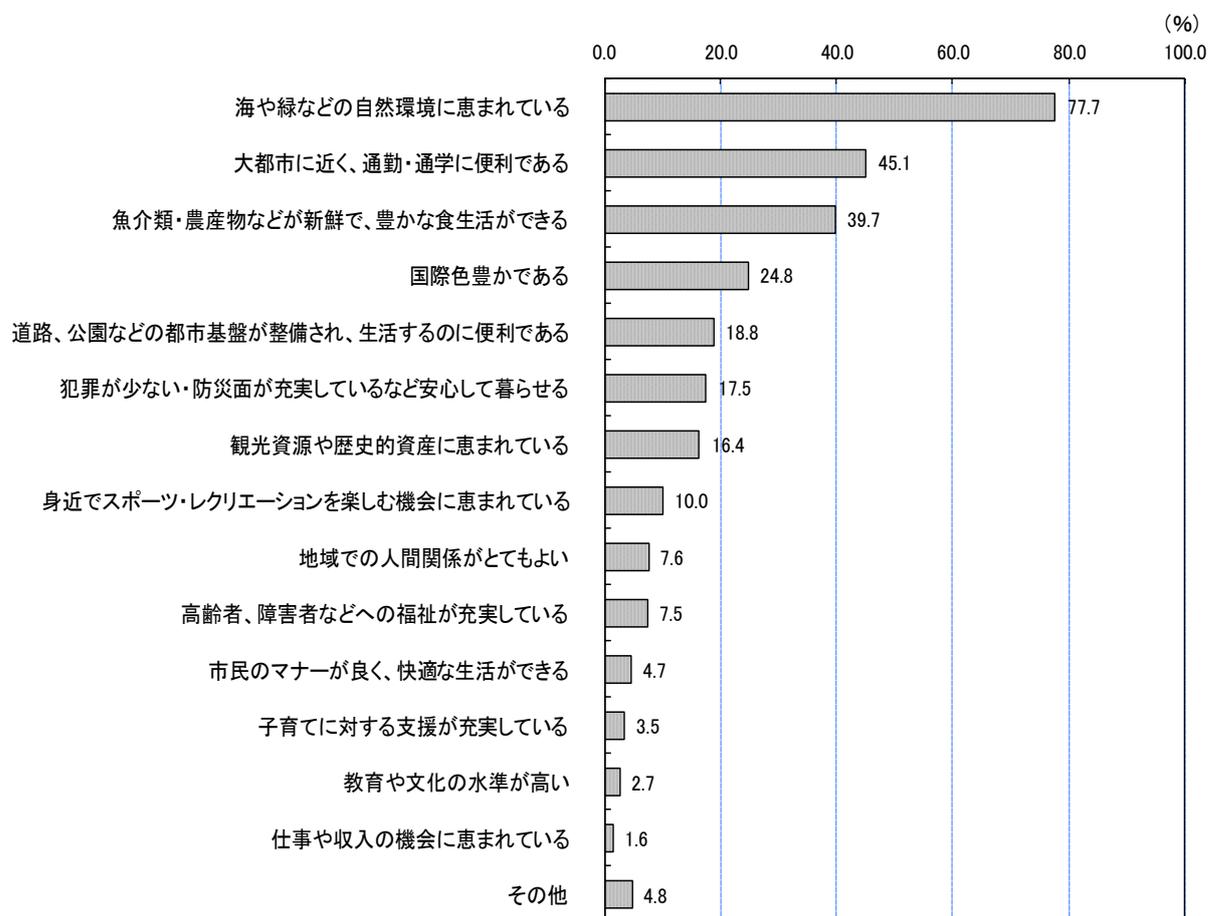
VI 横須賀市の魅力やイメージについて

1 横須賀市の魅力について

(1) 26年度調査結果

- ・「海や緑などの自然環境に恵まれている」の回答割合が最も高く（77.7%）、突出している。
- ・次いで、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」（45.1%）、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」（39.7%）が多く選択されている。

図表VI-1 「横須賀市の魅力的なところ」（n=707）



※複数回答3つまで選択

(2) 26年度－24年度調査結果

- ・平成24年度調査以降、全体的に回答割合に大きな差は見られない。回答割合が同程度の項目の順位変動は見られるものの、特に上位項目は安定している。
- ・全年度で1位の「海や緑などの自然環境に恵まれている」は、高い値で安定しており、市の魅力として捉えられている状況がうかがえる。
- ・前年度調査と比較して、全ての項目の中で回答割合の増減が最も大きかったのは「国際色豊かである」で、4.4ポイントの増加となっている。(本報告書には掲載していないが、平成23年度から平成25年度の間に約6ポイント減少していた)

図表VI-2 「横須賀市の魅力的なところ」の回答割合 (H26-24年度)

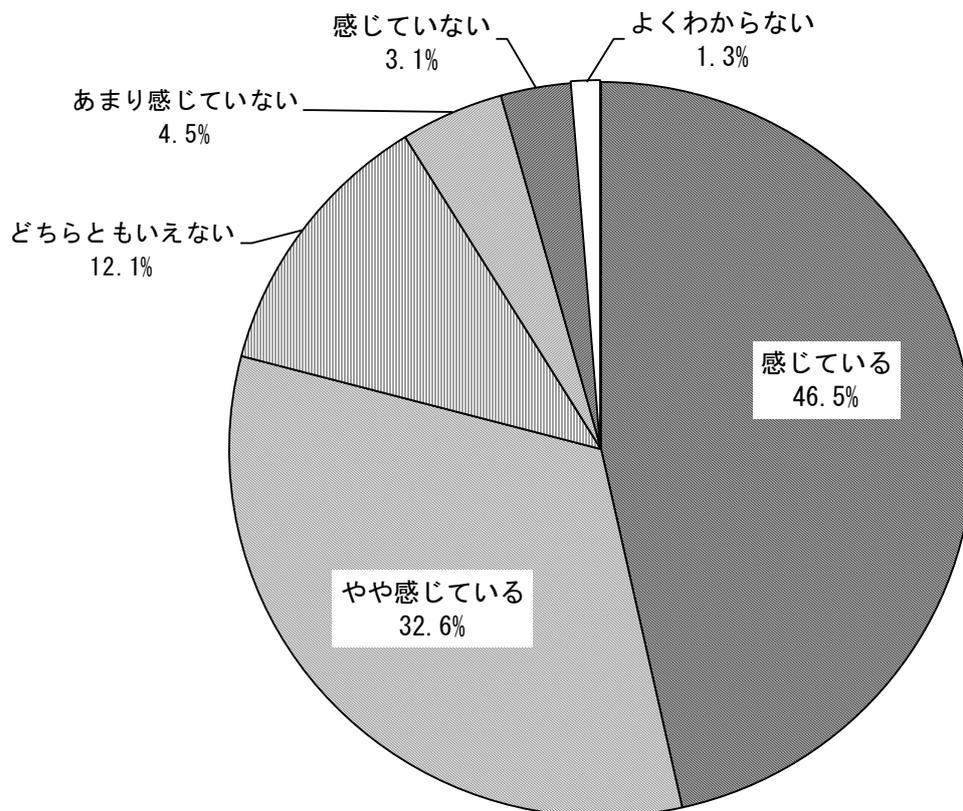
選択肢	26年度(n=707)		25年度(n=697)		24年度(n=757)		26-25年度比	25-24年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
海や緑などの自然環境に恵まれている	1	77.7	1	78.6	1	76.6	▲ 0.9	2.0
大都市に近く、通勤・通学に便利である	2	45.1	2	43.8	2	49.9	1.3	▲ 6.1
魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	3	39.7	3	43.2	3	40.8	▲ 3.5	2.4
国際色豊かである	4	24.8	4	20.4	4	20.1	4.4	0.3
道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である	5	18.8	5	19.9	6	18.6	▲ 1.1	1.3
犯罪が少ない・防災面が充実しているなど安心して暮らせる	6	17.5	7	14.5	7	14.7	3.0	▲ 0.2
観光資源や歴史的資産に恵まれている	7	16.4	6	15.2	5	18.8	1.2	▲ 3.6
身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている	8	10.0	10	8.9	9	10.2	1.1	▲ 1.3
地域での人間関係がとてよい	9	7.6	9	9.2	8	10.3	▲ 1.6	▲ 1.1
高齢者、障害者などへの福祉が充実している	10	7.5	8	9.5	10	9.9	▲ 2.0	▲ 0.4
市民のマナーが良く、快適な生活ができる	11	4.7	11	4.6	12	2.0	0.1	2.6
子育てに対する支援が充実している	12	3.5	12	3.9	11	2.9	▲ 0.4	1.0
教育や文化の水準が高い	13	2.7	13	1.9	12	2.0	0.8	▲ 0.1
仕事や収入の機会に恵まれている	14	1.6	14	1.7	14	1.8	▲ 0.1	▲ 0.1
その他	-	4.8	-	4.9	-	5.0	▲ 0.1	▲ 0.1

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

2 横須賀市への愛着について

本市への愛着を「感じている」(46.5%)、「やや感じている」(32.6%)を合わせると回答者の約8割に上り、愛着の強さがうかがえる。この傾向は図表VI-4のとおり、各年度における調査でほとんど変化は見られない。

図表VI-3 「横須賀市への愛着」(n=712)



図表VI-4 「横須賀市への愛着」(H26-24年度)

調査年度	件数(人)							(%)	
		①感じている	②やや感じている	③どちらともいえない	④あまり感じていない	⑤感じていない	⑥わからない	①+②	④+⑤
26年度	712	46.5	32.6	12.1	4.5	3.1	1.3	79.1	7.6
25年度	698	46.4	30.8	13.5	5.7	3.2	0.4	77.2	8.9
24年度	761	52.2	26.7	11.7	5.4	3.2	3.2	78.9	8.6

3 横須賀市のイメージについて

(1) 現在の都市イメージ

- ・上位に選択された項目は各年度の調査で同様で、それらの回答割合にも大きな差は見られない。上位3項目とそれ以外の項目で開きが大きい状況である。
- ・今回調査でも、「米軍基地・自衛隊がある『基地のまち』」は 86.7%で、突出して高い値となった。
- ・次いで高い割合を示した項目は「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」(48.4%)、「首都圏への通勤者が多い『住宅中心のまち』」(41.1%)という結果となった。

図表VI-5 「横須賀市のイメージ（現在の都市イメージ）」の回答割合（H26-24年度）

現在の都市イメージの項目	26年度 (n=701)		25年度 (n=696)		24年度 (n=733)		26-25年度比	25-24年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」	1	86.7	1	88.8	1	86.4	▲ 2.1	2.4
豊かな自然が残されている「自然環境に恵まれたまち」	2	48.4	2	48.9	2	48.8	▲ 0.5	0.1
首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」	3	41.1	3	38.6	3	42.3	2.5	▲ 3.7
農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」	4	20.5	4	20.5	5	19.5	0.0	1.0
外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」	5	20.0	5	20.4	4	21.8	▲ 0.4	▲ 1.4
市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」	6	12.7	6	12.4	7	11.4	0.3	1.0
道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」	7	10.4	8	8.6	9	8.1	1.8	0.5
さまざまな分野の研究機関が集積する「ICT・先端技術のまち」	8	9.3	7	10.9	6	12.7	▲ 1.6	▲ 1.8
ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」	9	9.1	9	7.5	8	8.9	1.6	▲ 1.4
自動車産業など「工業が盛んなまち」	10	6.0	11	4.7	10	6.2	1.3	▲ 1.5
防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」	11	5.7	10	5.2	11	4.7	0.5	0.5
高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」	12	3.7	13	3.0	12	3.8	0.7	▲ 0.8
健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」	13	2.7	12	3.6	14	3.2	▲ 0.9	0.4
商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」	13	2.7	15	1.3	15	1.4	1.4	▲ 0.1
芸術文化活動が盛んな「文化芸術のまち」	15	1.9	14	2.3	13	3.4	▲ 0.4	▲ 1.1
学校教育が充実した「教育のまち」	16	1.0	17	0.4	16	1.1	0.6	▲ 0.7
保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」	17	0.9	16	0.7	17	0.9	0.2	▲ 0.2
その他	-	3.7	-	4.3	-	3.2	▲ 0.6	1.1

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

(2) 望ましい都市イメージ

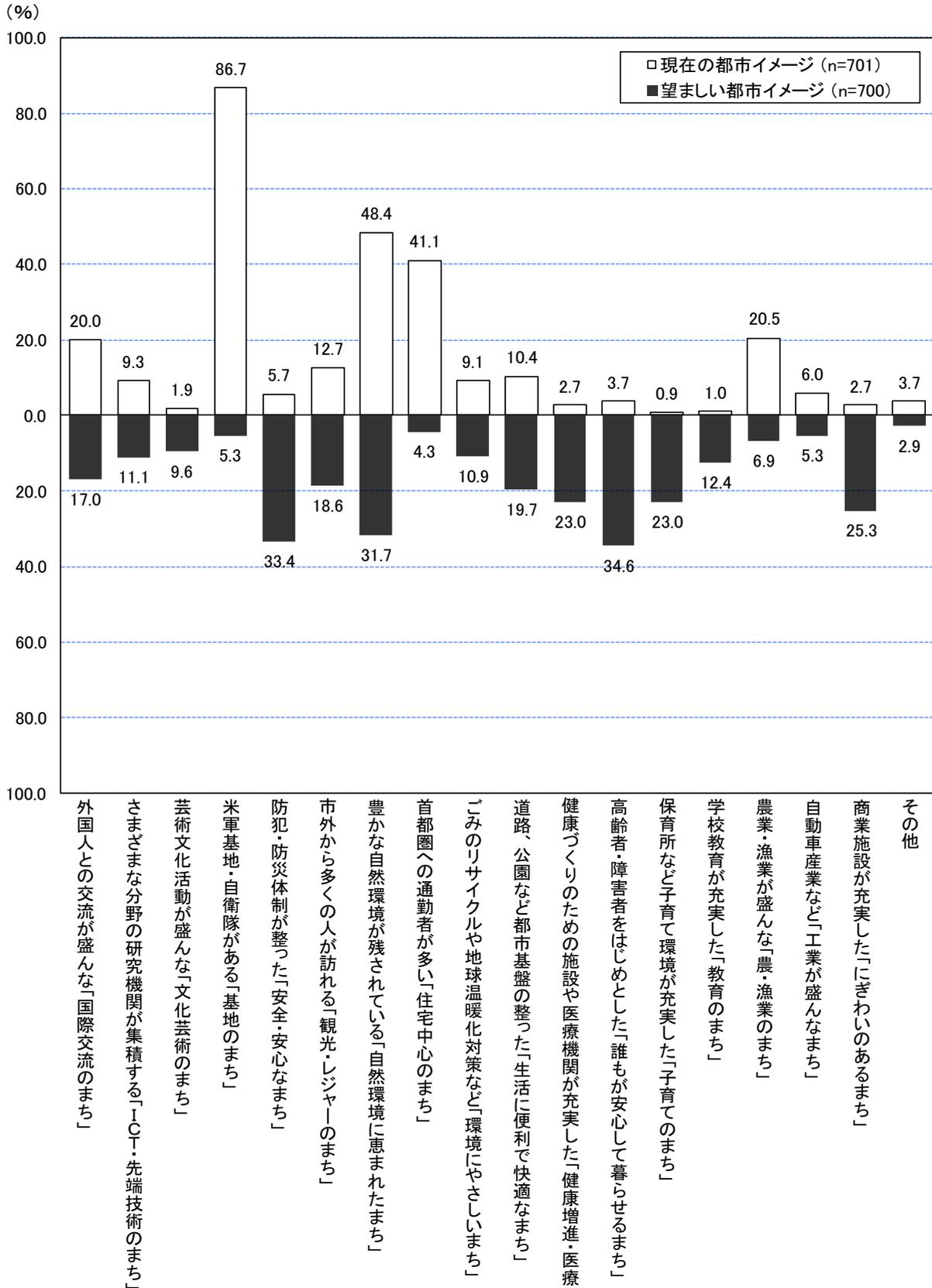
- ・上位に選択された項目は各年度の調査で同様であったが、回答割合の多寡には違いが見られた。
- ・今回調査では、前年度調査で3位であった「高齢者・障害者をはじめとした『誰もが安心して暮らせるまち』」(34.6%)が1位となったが、その回答割合は若干減少しており、上位3項目の「防犯・防災体制が整った『安全・安心なまち』」(33.4%)、「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」(31.7%)がそれぞれ5ポイント強の減少となっていることによる順位変動と考えられる。
- ・また、この2項目については全項目の中で最も回答割合の増減が大きい項目である。
- ・一方、最も回答割合が増加した項目は、「保育所など子育て環境が充実した『子育てのまち』」(23.0%)で、4.3ポイントの増加となっている。

図表VI-6 「横須賀市のイメージ(望ましい都市イメージ)」の回答割合(H26-24年度)

望ましい都市イメージの項目	26年度(n=700)		25年度(n=691)		24年度(n=733)		26-25年度比	25-24年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」	1	34.6	3	36.0	2	35.7	▲ 1.4	0.3
防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」	2	33.4	1	38.5	1	39.6	▲ 5.1	▲ 1.1
豊かな自然が残されている「自然環境に恵まれたまち」	3	31.7	2	37.0	3	31.7	▲ 5.3	5.3
商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」	4	25.3	5	26.2	5	22.8	▲ 0.9	3.4
健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」	5	23.0	4	26.3	4	26.2	▲ 3.3	0.1
保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」	5	23.0	7	18.7	6	20.3	4.3	▲ 1.6
道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」	7	19.7	6	19.7	7	18.1	▲ 0.0	1.6
市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」	8	18.6	8	15.9	8	16.2	2.7	▲ 0.3
外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」	9	17.0	9	14.8	9	13.4	2.2	1.4
学校教育が充実した「教育のまち」	10	12.4	10	12.6	11	12.7	▲ 0.2	▲ 0.1
さまざまな分野の研究機関が集積する「ICT・先端技術のまち」	11	11.1	11	10.4	12	11.6	0.7	▲ 1.2
ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」	12	10.9	12	9.1	10	12.1	1.8	▲ 3.0
芸術文化活動が盛んな「文化芸術のまち」	13	9.6	13	8.8	13	10.5	0.8	▲ 1.7
農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」	14	6.9	14	7.2	14	8.0	▲ 0.3	▲ 0.8
米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」	15	5.3	15	4.6	15	5.9	0.7	▲ 1.3
自動車産業など「工業が盛んなまち」	15	5.3	16	3.8	16	4.6	1.5	▲ 0.8
首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」	17	4.3	17	2.6	17	2.7	1.7	▲ 0.1
その他	-	2.9	-	2.3	-	3.1	0.6	▲ 0.8

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表VI-7 「横須賀市のイメージ（現在のイメージと望ましい都市イメージ）」

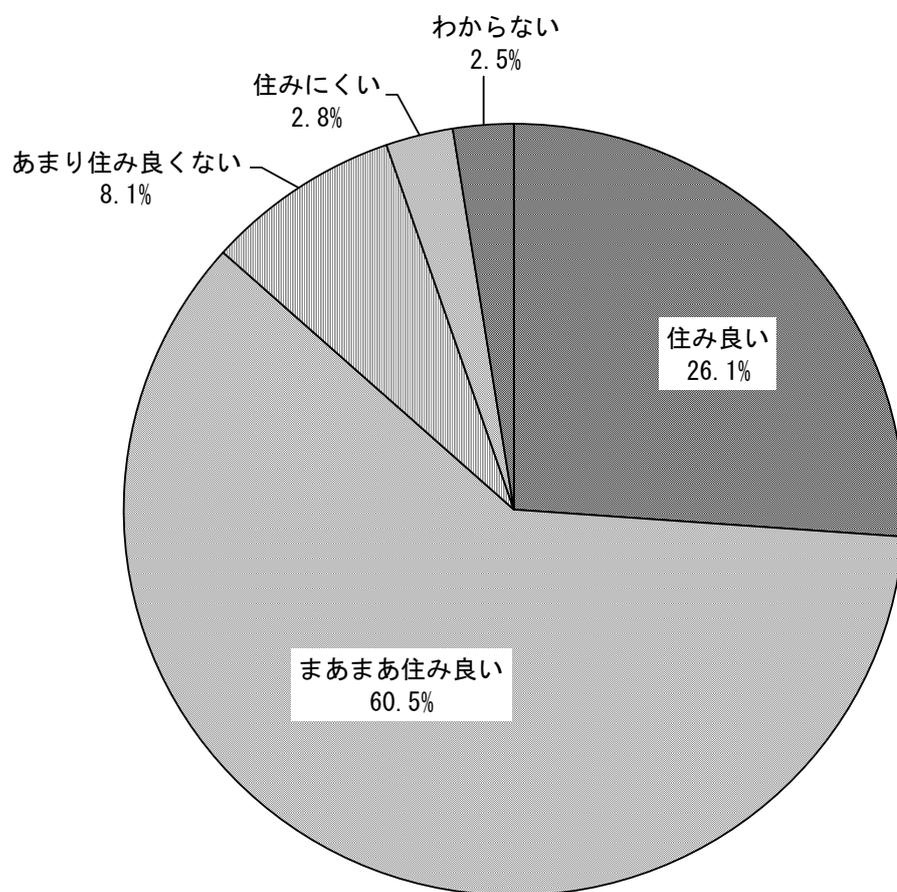


VII 横須賀市の住み良さや定住意識について

1 横須賀市の住み良さについて 【新規設問】

「住み良い」(26.1%)、「まあまあ住み良い」(60.5%)を合わせると、回答者の約87%に上り、多くの回答者が住み良さを実感している状況がうかがえる。

図表VII-1 「横須賀市の住み良さ」(n=716)



図表VII-2 「横須賀市の住み良さ」(H26年度)

件数(人)	(%)						
	①住み良い	②まあまあ住み良い	③あまり住みよくない	④住みにくい	⑤わからない	①+②	③+④
716	26.1	60.5	8.1	2.8	2.5	86.6	10.9

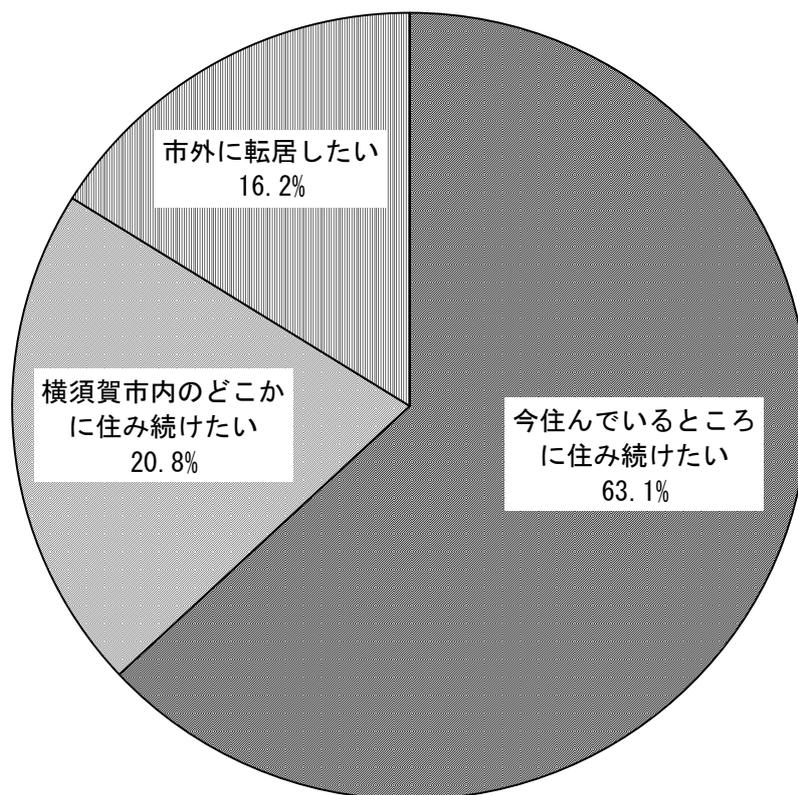
(回答理由分類についてはP81参照)

2 横須賀市への定住意識について 【新規設問】

(1) 横須賀市への定住意識

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」(63.1%)、「横須賀市内のどこかに住み続けたい」(20.8%)を合わせると、回答者の約84%に上り、定住意識の高さがうかがえる。

図表Ⅶ-3 「横須賀市への定住意識」(n=712)



図表Ⅶ-4 「横須賀市への定住意識」(H26年度)

件数(人)	(%)			
	①今住んでいるところに住み続けたい	②横須賀市内のどこかに住み続けたい	③市外に転居したい	①+②
712	63.1	20.8	16.2	83.9

(2) 市内に住み続けたい理由

※「①今住んでいるところに住み続けたい」「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」
を選択した回答者のみ

- ・「自然環境が豊か」(49.8%) が最も多く選択されており、次いで、「親・親族が近くに
住んでいる」(30.8%)、「買い物しやすい」(23.6%) が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目・2番目の項目として「自然環境が豊か」が最も多く選択さ
れている。特に1番目の項目で突出している。

図表Ⅶ－5 「市内に住み続けたい理由」の回答割合 (n=590)

選択肢	順位	回答割合(%)
自然環境が豊か	1	49.8
親・親族が近くに住んでいる	2	30.8
買い物しやすい	3	23.6
通勤・通学に便利	4	21.5
治安がよい	5	13.2
住民の雰囲気が良い	6	11.5
災害への心配がない	7	9.0
道路、公園などの都市基盤が整備されている	8	5.6
子育て環境が良い	9	3.6
望ましい住宅が取得できる	10	3.6
福祉サービスが充実している	11	3.2
教育環境が良い	12	0.5
市内の雇用状況が良い	13	0.2
その他	—	13.2

※回答は2つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

(回答理由分類についてはP83参照)

図表Ⅶ－6 「市内に住み続けたい理由」（選択順位別）

市内に住み続けたい理由	全体		1番目		2番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
自然環境が豊か	294	49.8	194	32.9	100	19.0
親・親族が近くに住んでいる	182	30.8	83	14.1	99	18.8
買い物しやすい	139	23.6	50	8.5	89	16.9
通勤・通学に便利	127	21.5	65	11.0	62	11.8
治安がよい	78	13.2	47	8.0	31	5.9
住民の雰囲気がよい	68	11.5	20	3.4	48	9.1
災害への心配がない	53	9.0	39	6.6	14	2.7
道路、公園などの都市基盤が整備されている	33	5.6	16	2.7	17	3.2
子育て環境がよい	21	3.6	14	2.4	7	1.3
望ましい住宅が取得できる	21	3.6	7	1.2	14	2.7
福祉サービスが充実している	19	3.2	11	1.9	8	1.5
教育環境がよい	3	0.5	2	0.3	1	0.2
市内の雇用状況がよい	1	0.2	0	0.0	1	0.2
その他	78	13.2	42	7.1	36	6.8
回答数(n)			590	100.0	527	100.0

※回答は順に2つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

※着色は選択順位別の上位3項目

(3) 市外に転居したい理由

※「③市外に転居したい」(P76)を選択した回答者のみ

- ・「通勤・通学に不便」(29.2%)が最も多く選択されており、次いで、「買い物に不便」(24.8%)が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「通勤・通学に不便」が最も多く選択され、次いで「買い物に不便」「市内の雇用が少ない」が同じ回答割合で選択されている。
- ・2番目の項目としては、「買い物に不便」が最も多く選択され、次いで「通勤・通学に不便」「災害が心配」が選択されている。

図表Ⅶ-7 「市外に転居したい理由」の回答割合 (n=113)

選択肢	順位	回答割合(%)
通勤・通学に不便	1	29.2
買い物に不便	2	24.8
市内の雇用が少ない	3	18.6
災害が心配	4	15.9
親・親族の近くに住みたい	5	10.6
福祉サービスが充実していない	6	9.7
住民の雰囲気がよくない	7	8.8
治安がよくない	8	8.0
自然環境が豊かでない	9	8.0
望ましい住宅が取得できない	10	8.0
子育て環境がよくない	11	6.2
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	12	5.3
教育環境がよくない	13	4.4
その他	—	23.9

※回答は2つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表Ⅶ－８ 「市外に転居したい理由」（選択順位別）

市外に転居したい理由	全体		1番目		2番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
通勤・通学に不便	33	29.2	20	17.7	13	14.1
買い物に不便	28	24.8	12	10.6	16	17.4
市内の雇用が少ない	21	18.6	12	10.6	9	9.8
災害が心配	18	15.9	8	7.1	10	10.9
親・親族の近くに住みたい	12	10.6	6	5.3	6	6.5
福祉サービスが充実していない	11	9.7	9	8.0	2	2.2
住民の雰囲気がよくない	10	8.8	6	5.3	4	4.3
治安がよくない	9	8.0	5	4.4	4	4.3
自然環境が豊かでない	9	8.0	5	4.4	4	4.3
望ましい住宅が取得できない	9	8.0	3	2.7	6	6.5
子育て環境がよくない	7	6.2	4	3.5	3	3.3
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	6	5.3	3	2.7	3	3.3
教育環境がよくない	5	4.4	4	3.5	1	1.1
その他	27	23.9	16	14.2	11	12.0
回答数(n)			113	100.0	92	100.0

※回答は順に2つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

※着色は選択順位別の上位3項目

(参考)「その他」の分類

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
他の場所に住みたい(外国含む)、親元を離れたたい	5	16.7
道路事情や運転マナーが悪いなどでストレス、山・坂が多い、交通利便性が低い	4	13.3
文化・芸術にふれられる場所が少ない、レジャースポットが少ない	3	10.0
将来的に地元に帰る(退職含む)	3	10.0
楽しみがない、魅力がない	3	10.0
病院が少ない	3	10.0
都市機能の発展がない、まちづくりの方向性に疑問、財政難	3	10.0
その他(物価が高い、コミュニティーが発展していない、基地など)	6	20.0
	30	100.0

3 回答理由分類

(1) 横須賀の住み良さ

「①住み良い」「②まあまあ住み良い」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然環境が豊か、自然とふれあえる、気候が温暖、空気がよい、水がおいしい	169	28.7
交通の便がよい、都市部に近い、通勤に便利	87	14.8
地元、住み慣れている、愛着がある、他を知らないので比較ができない	53	9.0
住環境がよい、人が多すぎず雑然としていない、住みやすい	33	5.6
商業施設の充実、買い物しやすい(近さを含む)	31	5.3
生活利便性が高い、不便を感じない、生活に必要な施設等に近い	31	5.3
災害が少ない	18	3.1
住民の雰囲気が良い、友人・知人がいる、住民性、地域活動が盛ん	16	2.7
都会と田舎の両面性、自然のある都会	15	2.5
静か、騒音がない	12	2.0
治安がよい、犯罪が少ない	11	1.9
福祉・医療体制の充実、バリアフリー、医療機関が利用しやすい(近さを含む)	10	1.7
のんびりできる、ゆったりしている、気取らなくてよい	7	1.2
農水産物が豊か	7	1.2
駅に近い	7	1.2
公共施設が利用しやすい(近さを含む)	6	1.0
勤務先に近い、仕事がある	4	0.7
親・親族が近くに住んでいる	4	0.7
物価が安い、住宅・土地価格が安い	4	0.7
子育て環境がよい、子どもと遊べる場所がある	2	0.3
学校が近い、大学がある	2	0.3
道路、公園などの都市基盤が整備されている	2	0.3
温泉施設がある、遊ぶ場所がある	2	0.3
歴史がある	2	0.3
その他、意見等	11	1.9
公共交通の利便性が低い、混雑、都市部に遠い、通勤に不便、車がないと不便	13	2.2
山・坂・丘が多く平坦でない、道が狭い、道路事情がよくない、渋滞	10	1.7
買い物に不便、商業施設の点在、商業施設の駐車場が高い	5	0.8
税金が高い、物価が高い	3	0.5
改善してほしいところがある	3	0.5
駅から遠い	2	0.3
福祉・医療体制が不十分	2	0.3
その他の否定的な回答理由(子育て費用助成の不足、街灯が少ない、単調になるなど)	5	0.8
	589	100.0

「③あまり住み良くない」「④住みにくい」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
公共交通の利便性が低い、都市部まで遠い、通勤通学に不便、車がないと不便	21	19.6
道路整備不足、山・坂・階段が多い、道が狭い、高速道路料金が低い、渋滞	15	14.0
魅力的な商業施設や飲食店が少ない、商店街の衰退、買い物に不便・市外流出	12	11.2
市民のモラルが低い、運転・路上駐車などマナーが悪い	5	4.7
福祉・医療体制が不十分	4	3.7
市内の雇用が少ない、低賃金、労働力人口の市外流出	4	3.7
基地、原子力空母、核燃料関連施設がある	4	3.7
退屈、窮屈、生活に不便、住みにくい	4	3.7
治安がよくない	3	2.8
自然の減少、まちなかの自然の減少、風が強い	3	2.8
税金が高い、物価が高い	3	2.8
教育環境がよくない	2	1.9
災害時の公共交通の遮断が心配、活断層がある	2	1.9
住民の調和がない（排他的）、町内会活動が活発すぎる	2	1.9
文化施設が少ない、文化面が遅れている	2	1.9
まちが汚い	2	1.9
行政サービスがよくない	2	1.9
その他、意見等	13	12.1
住みやすい、環境はよい、気候はよい、公共施設の充実	4	3.7
	107	100.0

(2) 横須賀市への定住意識 ～市内に住み続けたい理由～

※P77 図表Ⅶ-5 「市内に住み続けたい理由」内訳 (回答数が多いもののみ掲載)

「自然環境が豊か」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
海・山、公園など自然が多い、近い	128	53.6
静か、鳥のさえずりが聞こえる	16	6.7
散歩やウォーキング、レジャー、アウトドアを楽しめる、余暇を楽しめる	14	5.9
温暖な気候、風が心地よい、過ごしやすい	12	5.0
癒される、のんびりできる (そのような場がある)	11	4.6
四季を感じられる	7	2.9
空気がきれい、空が青い	7	2.9
都心に近いのに自然がある、自然があるが生活利便性も高い	6	2.5
子育てによい	5	2.1
景観がよい (海、星、富士山など)	5	2.1
自然とふれあえる機会が多い	4	1.7
人が多すぎない、車の交通量が少ない、ほどよく田舎	4	1.7
農水産物が豊か	2	0.8
災害が少ない	2	0.8
住みやすい	2	0.8
その他	14	5.9
	239	100.0

「親・親族が近くに住んでいる」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
親、兄弟、親族が市内や近くに住んでいる	41	38.3
先祖代々住んでいる、お墓(寺)も市内にある	(6)	
親と同居中、二世帯住宅	(4)	
自身の実家、配偶者の実家がある	(4)	
親・親族が近くに住んでいて仕方がないから	(2)	
何かあった時に駆けつけられる、助け合える、近くにいたい	12	11.2
生まれ育ったまち、住み慣れている	12	11.2
子ども・孫が市内、近くに住んでいる	9	8.4
親が高齢、親の将来的な健康面・介護	8	7.5
何かと心強い、安心できる	8	7.5
子育てを手伝ってもらえる	7	6.5
友人が市内、近くに住んでいる	4	3.7
自身が高齢	2	1.9
その他 (横須賀を気に入っている、持ち家、一人っ子、嫁ぎ先が自営)	4	3.7
	107	100.0

「買い物しやすい」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
商店街、商業施設、コンビニに近い、駅の近くに商業施設がある、行きやすい	31	33.0
必要なものは市内でそろそろ、買い物しやすい	11	11.7
交通利便性が高い、他都市に買い物に行きやすい	8	8.5
商業施設が多い	7	7.4
大型商業施設の増加、商業施設の集約、施設駐車場の整備	6	6.4
平地に住んでいる、道が平坦	5	5.3
高齢なので近くで買い物できてよい	5	5.3
商店街の充実、商店街での買い物が楽しい	4	4.3
車があれば便利	4	4.3
不便を感じない、住みやすい	4	4.3
商品、物価が安い	2	2.1
その他、意見等	4	4.3
今は不便（住み替えればよさそう）、駐車場がない、便利なところに移りたい	3	3.2
	94	100.0

「その他」

※延件数のため、他の選択肢に該当する内容も含む

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
住み慣れている、長年住んでいる、横須賀以外に住んだことがない	13	15.7
生まれ育ったまち、友人がいる、自身のルーツがある	12	14.5
知らない土地へ移るリスク、転居が面倒、今さら転居したくない、高齢	8	9.6
気候が温暖、景観がよい、自然環境がよい、空気がきれい	7	8.4
横須賀が好き、愛着がある	6	7.2
住みやすい、住環境が合っている、他所で現状以上を望めない、不満がない	6	7.2
持ち家だから、持ち家がほしいから	5	6.0
転居する経済力がない	3	3.6
学校・勤務先が市内	2	2.4
交通利便性が高い	2	2.4
他に行くところがない	2	2.4
適度に寂れている、長年変化がないのがよい	2	2.4
その他	12	14.5
個人商店が減って困っている、核燃料関連施設がある、救急搬送が遅い	3	3.6
	83	100.0

4 定住意識と重点プログラムの傾向

(1) 取り組みの方向性別の傾向

①「今住んでいるところに住み続けたい」回答者の傾向

- ・各取り組みの方向性の全体的なDIの傾向（多寡）と大きな違いは見られず、概ね全体のDIを上回っている。
- ・全体のDIとの差が大きい取り組みの方向性は「現在について」の「5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」で、12.1ポイント上回っている。
- ・「現在について」の「1-2 人間性豊かな子どもの育成」では、全体のDIはマイナスであるが、8.0ポイントのプラスとなっている。
- ・「以前との比較」のプログラム4の2つの取り組みの方向性（4-1/4-2）で、唯一、全体のDIを下回っている。

図表Ⅶ-9 「今住んでいるところに住み続けたい×取り組みの方向性」

【現在について】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	331	43.8	28.1	28.1	15.7	9.7
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	287	36.6	34.8	28.6	8.0	▲ 0.9
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	359	36.8	30.9	32.3	4.5	▲ 2.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	425	47.3	25.6	27.1	20.2	15.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	414	69.6	14.0	16.4	53.2	46.5
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	350	42.6	26.9	30.6	12.0	7.4
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	364	22.0	23.4	54.7	▲ 32.7	▲ 35.0
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	389	31.1	26.7	42.2	▲ 11.1	▲ 15.2
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	318	40.9	28.6	30.5	10.4	2.5
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	321	45.8	27.7	26.5	19.3	7.2

【以前との比較】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	282	40.8	44.0	15.2	25.6	20.9
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	257	34.2	54.5	11.3	22.9	20.2
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	310	41.3	50.0	8.7	32.6	28.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	379	39.1	46.2	14.8	24.3	23.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	379	35.6	40.9	23.5	12.1	11.3
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	316	46.5	40.5	13.0	33.5	28.1
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	331	26.3	38.7	35.0	▲ 8.7	▲ 8.3
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	354	32.2	45.8	22.0	10.2	10.9
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	278	40.3	45.7	14.0	26.3	18.7
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	287	39.0	50.2	10.8	28.2	21.4

※着色は各取り組みの方向性の全体のDI（P5～「Ⅱ集計結果」で既出）を下回っているもの

②「横須賀市内のどこかに住みたい」回答者の傾向

- ・各取り組みの方向性の全体的なDIの傾向（多寡）と大きな違いは見られない。
- ・全体のDIとの差が大きい取り組みの方向性は「現在について」の「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」で、8.0ポイント上回っている。次いで、「以前との比較」の「3-1 人と自然が共生するまちづくり」（7.7ポイント差）、「5-2 地域を支えるコミュニティー機能の強化」（▲7.6ポイント差）となっている。
- ・「現在について」「以前との比較」いずれも全体のDIを下回ったのは「1-2 人間性豊かな子どもの育成」「2-1 誰もが活躍できるまちづくり」「5-2 地域を支えるコミュニティー機能の強化」の3つである。

図表Ⅶ-10 「横須賀市内のどこかに住みたい×取り組みの方向性」

【現在について】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	96	40.6	32.3	27.1	13.5	9.7
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	85	27.1	41.2	31.8	▲ 4.7	▲ 0.9
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	110	28.2	36.4	35.5	▲ 7.3	▲ 2.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	140	44.3	30.7	25.0	19.3	15.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	134	64.9	17.9	17.2	47.7	46.5
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	114	42.1	27.2	30.7	11.4	7.4
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	119	19.3	24.4	56.3	▲ 37.0	▲ 35.0
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	126	34.1	24.6	41.3	▲ 7.2	▲ 15.2
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	96	29.2	43.8	27.1	2.1	2.5
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	113	34.5	32.7	32.7	1.8	7.2

【以前との比較】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	69	39.1	39.1	21.7	17.4	20.9
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	62	32.3	54.8	12.9	19.4	20.2
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	89	34.8	53.9	11.2	23.6	28.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	119	41.2	47.9	10.9	30.3	23.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	121	33.9	51.2	14.9	19.0	11.3
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	100	37.0	56.0	7.0	30.0	28.1
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	101	25.7	41.6	32.7	▲ 7.0	▲ 8.3
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	109	36.7	43.1	20.2	16.5	10.9
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	82	29.3	61.0	9.8	19.5	18.7
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	94	28.7	56.4	14.9	13.8	21.4

※着色は各取り組みの方向性の全体のDI（P5～「Ⅱ集計結果」で既出）を下回っているもの

③「市外に転居したい」回答者の傾向

- ・総じて DI の値が小さいが、各取り組みの方向性の全体的な DI の傾向（多寡）と大きな違いは見られない。
- ・全体の DI との差が大きい取り組みの方向性は「現在について」の「5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」で、42.7 ポイント下回っている。その他の取り組みの方向性でも 30 ポイント前後の開きが見られるものがある。
- ・「現在について」「以前との比較」いずれも DI がプラスとなったのは、「3-1 人と自然が共生するまちづくり」のみである。
- ・全体の DI を上回ったのは、「以前との比較」の「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」のみである。なお、これについては、「①今住んでいるところに住み続けたい」「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」の回答者の DI を上回っている。

図表Ⅶ-11 「市外に転居したい×取り組みの方向性」

【現在について】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	75	28.0	22.7	49.3	▲ 21.3	9.7
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	69	23.2	23.2	53.6	▲ 30.4	▲ 0.9
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	93	25.8	21.5	52.7	▲ 26.9	▲ 2.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	109	32.1	24.8	43.1	▲ 11.0	15.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	104	54.8	10.6	34.6	20.2	46.5
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	89	32.6	23.6	43.8	▲ 11.2	7.4
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	87	21.8	17.2	60.9	▲ 39.1	▲ 35.0
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	98	21.4	17.3	61.2	▲ 39.8	▲ 15.2
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	75	20.0	30.7	49.3	▲ 29.3	2.5
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	76	25.0	14.5	60.5	▲ 35.5	7.2

【以前との比較】

取り組みの方向性	件数(人)	(ポイント)				
		①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	各方向性 全体のDI
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	59	28.8	40.7	30.5	▲ 1.7	20.9
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	48	29.2	52.1	18.8	10.4	20.2
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	67	32.8	47.8	19.4	13.4	28.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	90	30.0	50.0	20.0	10.0	23.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	86	25.6	48.8	25.6	0.0	11.3
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	75	24.0	60.0	16.0	8.0	28.1
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	76	30.3	34.2	35.5	▲ 5.2	▲ 8.3
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	84	32.1	40.5	27.4	4.7	10.9
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	63	12.7	60.3	27.0	▲ 14.3	18.7
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	62	21.0	58.1	21.0	0.0	21.4

※着色は各取り組みの方向性の全体の DI（P5～「Ⅱ集計結果」で既出）を下回っているもの

(2) 優先して取り組むべき政策の傾向

- ・定住意識の違いによる政策の優先度の傾向に大きな差は見られない。また、全体の傾向との大きな違いも見られない。(P64 参照)
- ・「市外に転居したい」回答者が市内への定住意識のある回答者の回答割合を上回ったのは「1-2 人間性豊かな子どもの育成」「3-1 人と自然が共生するまちづくり」となった。

図表Ⅶ-12 「定住意識×優先して取り組むべき政策」の回答割合

取り組みの方向性	今住んでいるところに 住み続けたい(n=449)		横須賀市内のどこかに 住み続けたい(n=148)		市外に転居したい (n=115)	
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	1	61.2	1	65.1	1	62.3
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	15.8	7	13.7	6	21.1
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	8	11.7	8	11.6	8	8.8
(2-2) 安全で安心なまちづくり	2	56.0	2	56.8	2	50.9
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	23.9	5	22.6	5	28.1
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	9	6.3	9	7.5	9	5.3
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	3	50.6	3	47.9	3	44.7
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	41.5	4	47.3	4	39.5
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	10	6.1	10	4.8	10	5.3
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	7	14.4	6	19.2	7	13.2
その他	—	7.4	—	2.7	—	14.0

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

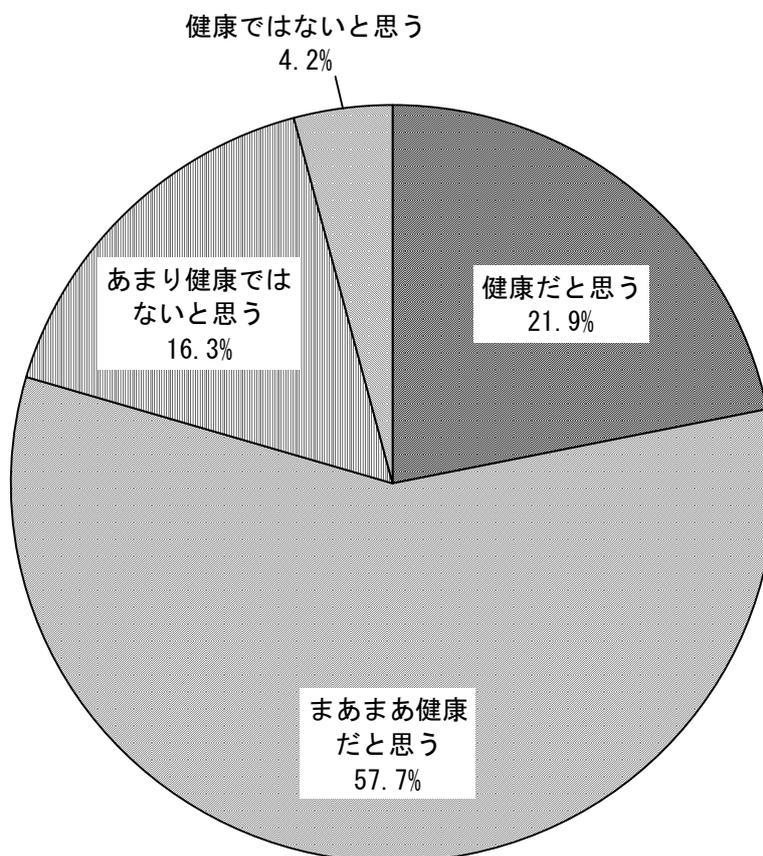
VIII 健康づくりについて

少子高齢化が進む中、多くの市民がいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指すに当たり、自身の健康づくりに対する状況を尋ねた。

1 健康状態について 【新規設問】

「健康だと思う」(21.9%)、「まあまあ健康だと思う」(57.7%)を合わせると、回答者の約8割に上り、多くの回答者が比較的健康だと感じている状況がうかがえる。

図表Ⅷ－1 「健康状態」(n=718)



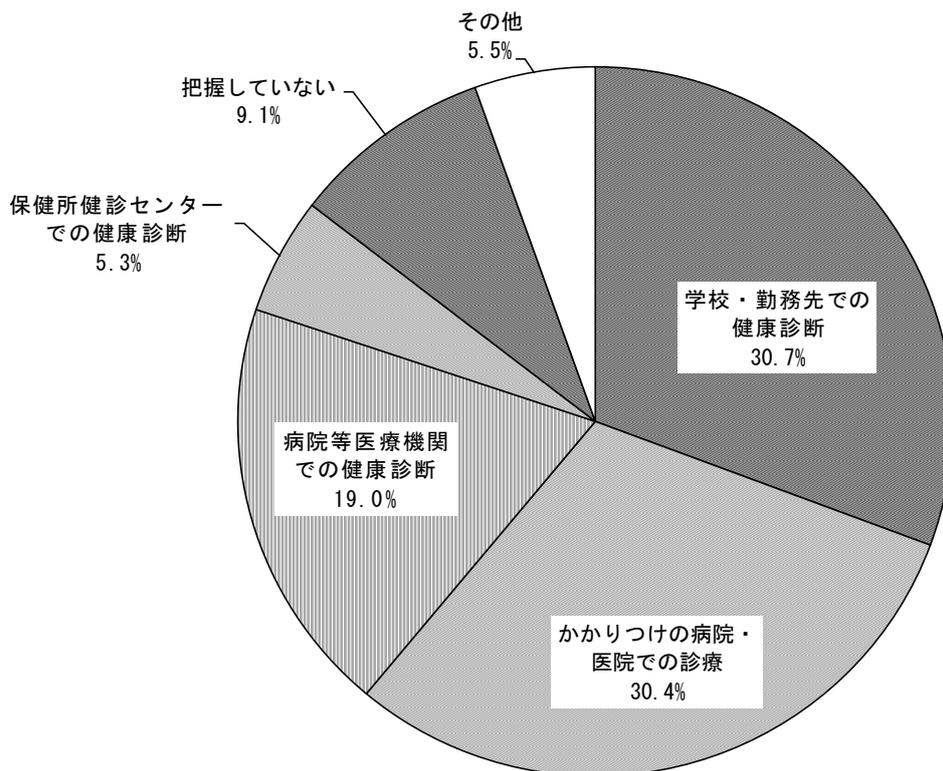
図表Ⅷ－2 「健康状態」(H26 年度)

件数(人)	(%)					
	①健康だと思う	②まあまあ健康 だと思う	③あまり健康では ないと思う	④健康ではない と思う	①+②	③+④
718	21.9	57.7	16.3	4.2	79.6	20.5

2 健康状態の把握手段について 【新規設問】

「学校・勤務先での健康診断」「かかりつけの病院・医院での診療」が同程度の回答割合（約 30%）で最も多い。その他の健康診断（病院等医療機関と保健所健診センター）の利用者は合わせて約 25%となった。回答者の約 15%（⑤+⑥）は健康診断や診療を受けていない結果となった。

図表Ⅷ－3 「健康状態の把握手段」（n=714）



図表Ⅷ－4 「健康状態の把握手段」（H26 年度）

件数(人)	把握手段						②+③ (%)
	①学校・勤務先での健康診断	②病院等医療機関での健康診断	③保健所健診センターでの健康診断	④かかりつけの病院・医院での診療	⑤把握していない	⑥その他	
714	30.7	19.0	5.3	30.4	9.1	5.5	24.3

(参考)「その他」の分類

回答理由分類	延件数(人)	構成比 (%)
自己観察、日常での不具合発見など	9	23.1
食欲の有無、睡眠の状況	6	15.4
スポーツ、ジムでのトレーニング、畑づくり	5	12.8
血圧・体重などを自己計測	2	5.1
献血での検査	2	5.1
その他	15	38.5
	39	100.0

3 習慣的な運動の実施状況について 【新規設問】

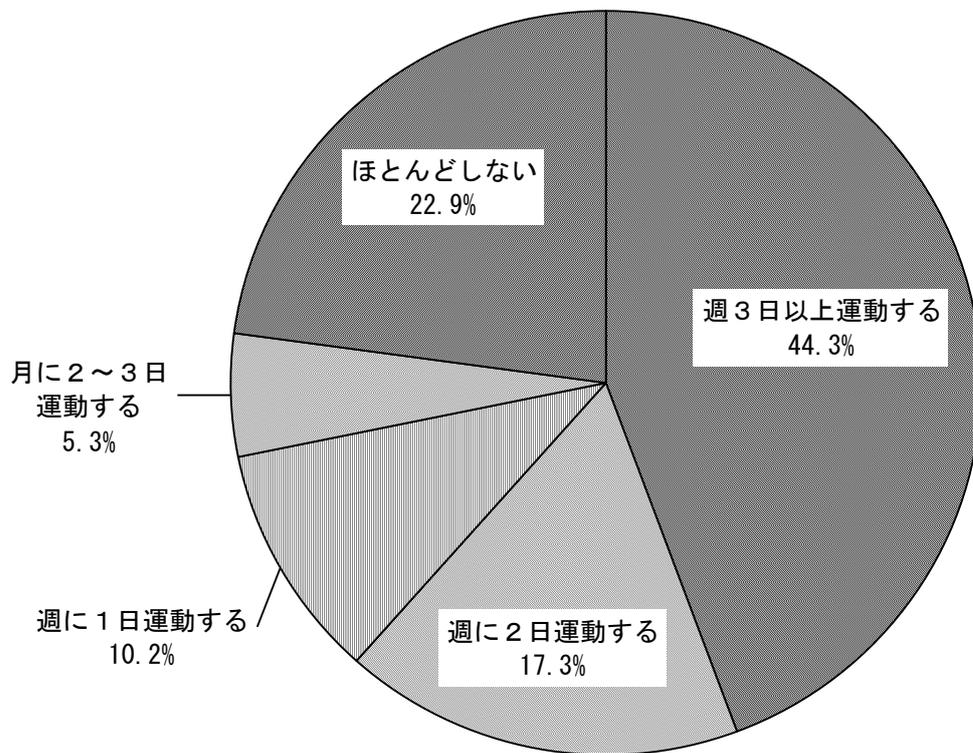
1日30分以上の運動を「週3日以上」している人(44.3%)が最も多い。また、週に1日以上運動している人(①～③)を合わせると、回答者の約7割に上る(71.8%)。

一方、1日30分以上の運動を「ほとんどしない」人も、22.9%と2番目に多い状況となっている。

※30分以上の運動

- ・1日の合計で30分以上(例:10分を3回なども含む)
- ・運動にはウォーキングや自転車での走行等を含む

図表Ⅷ-5 「習慣的な運動の実施状況」(n=713)



図表Ⅷ-6 「習慣的な運動の実施状況」(H26年度)

件数(人)	(%)				
	①週3日以上	②週2日	③週1日	④月2～3日	⑤ほとんどしない
713	44.3	17.3	10.2	5.3	22.9

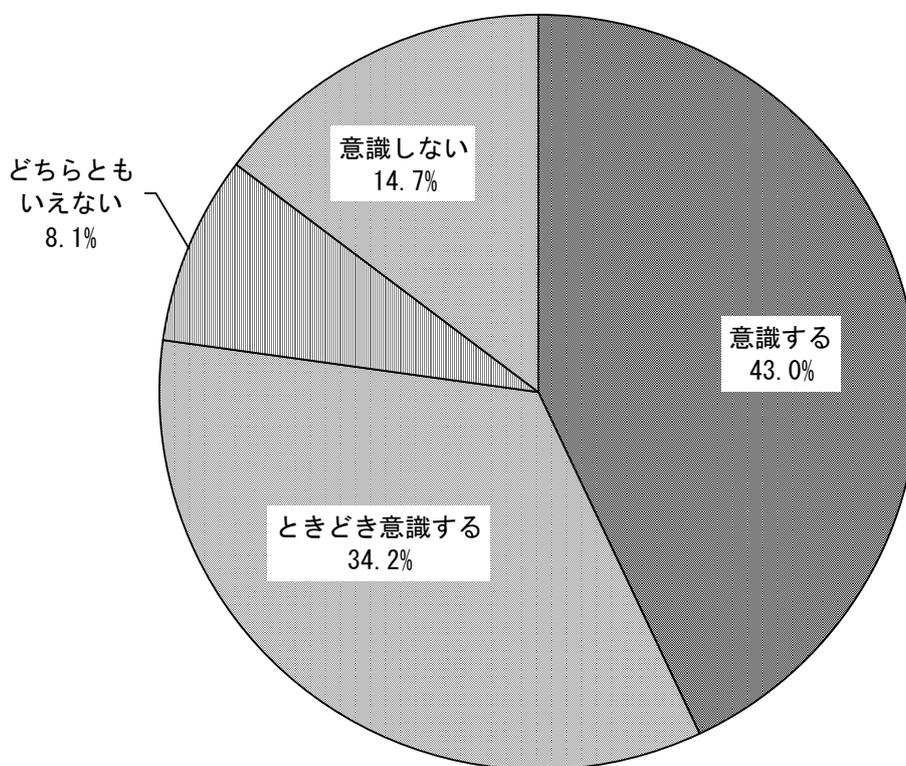
IX 地産地消について

地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指す中、地産地消に対する意識について尋ねた。

1 農水産物の産地に対する意識について 【新規設問】

産地を「意識する」(43.0%)、「ときどき意識する」(34.2%)を合わせると、回答者の75%を超えており、意識の高さがうかがえる。

図表Ⅸ-1 「農水産物の産地に対する意識」(n=702)



図表Ⅸ-2 「農水産物の産地に対する意識」(H26年度)

件数(人)	(%)				
	①意識する	②ときどき意識する	③どちらともいえない	④意識しない	①+②
702	43.0	34.2	8.1	14.7	77.2

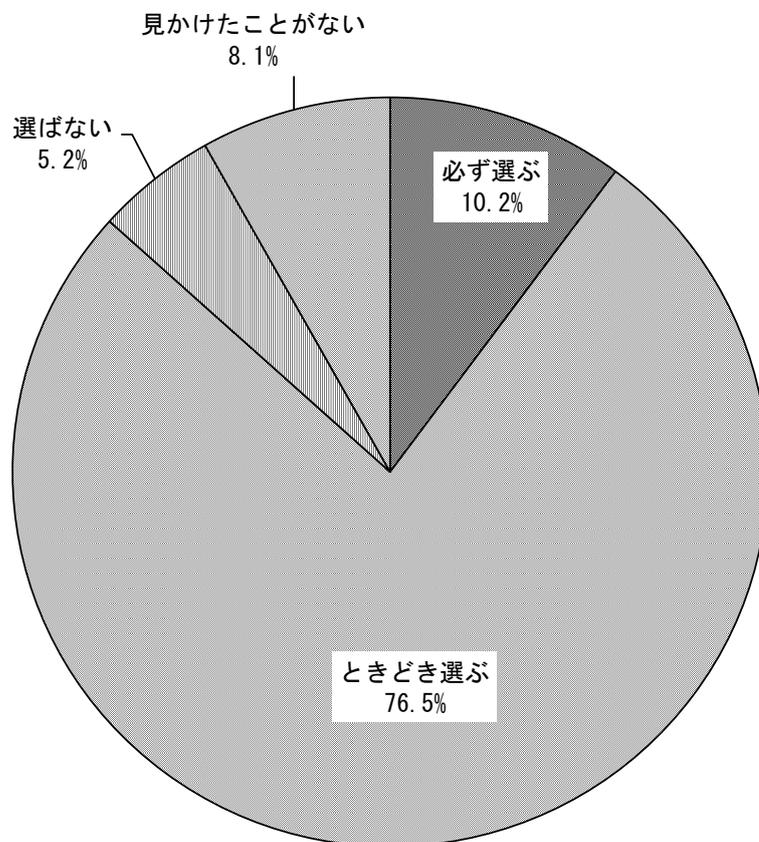
2 横須賀市産の農水産物の選択について 【新規設問】

※農水産物の産地について「①意識する」「②ときどき意識する」を選択した回答者のみ

横須賀市産の農水産物を「必ず選ぶ」(10.2%)、「ときどき選ぶ」(76.5%)を合わせると、回答者の85%を超えている。

一方、農水産物の産地を意識している人(本設問回答者)の中でも、横須賀市産の農水産物を「見かけたことがない」人が1割弱いる(8.1%)。また、横須賀市産の農水産物を「選ばない」人もわずかながらいる状況である(5.2%)。

図表Ⅸ-3 「横須賀市産の農水産物の選択」(n=540)



図表Ⅸ-4 「横須賀市産の農水産物の選択」(H26年度)

件数(人)					(%)
	①必ず選ぶ	②ときどき選ぶ	③選ばない	④見かけたことがない	①+②
540	10.2	76.5	5.2	8.1	86.7

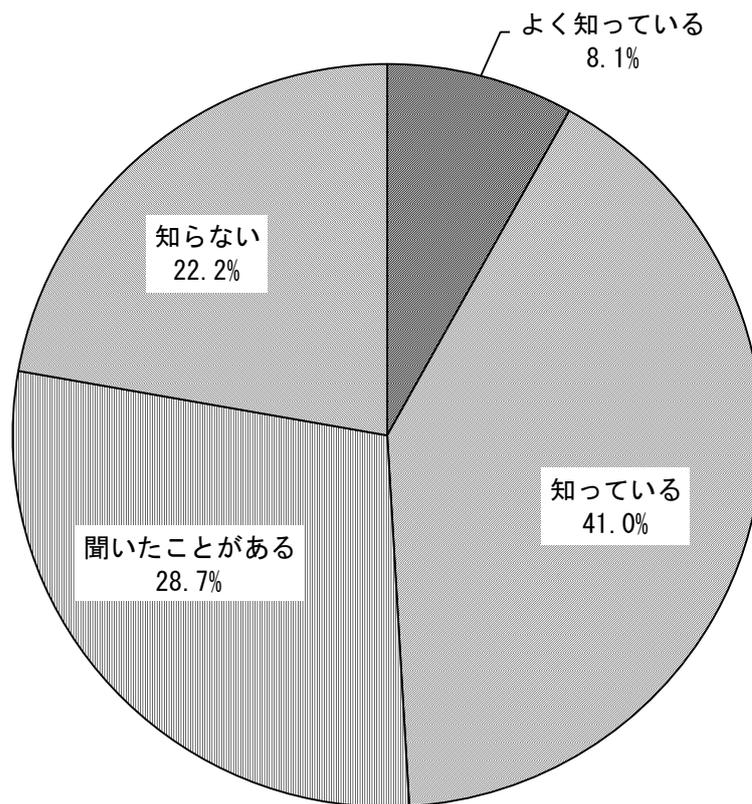
X 横須賀製鉄所（造船所）について

横須賀製鉄所（造船所）が2015年に開設150周年を迎えるに当たり、横須賀製鉄所に対する認知度を把握するため、横須賀製鉄所やゆかりの人物についてどの程度知っているかを尋ねた。

1 横須賀製鉄所の認知度について 【新規設問】

横須賀製鉄所を「知っている」と回答した人が最も多く（41.0%）、次いで、「聞いたことがある」と回答した人が多い（28.7%）。一方、約2割の回答者が横須賀製鉄所を知らない状況である（22.2%）。

図表X-1 「横須賀製鉄所の認知度」(n=693)



図表X-2 「横須賀製鉄所の認知度」(H26年度)

件数(人)	認知度 (%)			
	①よく知っている	②知っている	③聞いたことがある	④知らない
693	8.1	41.0	28.7	22.2

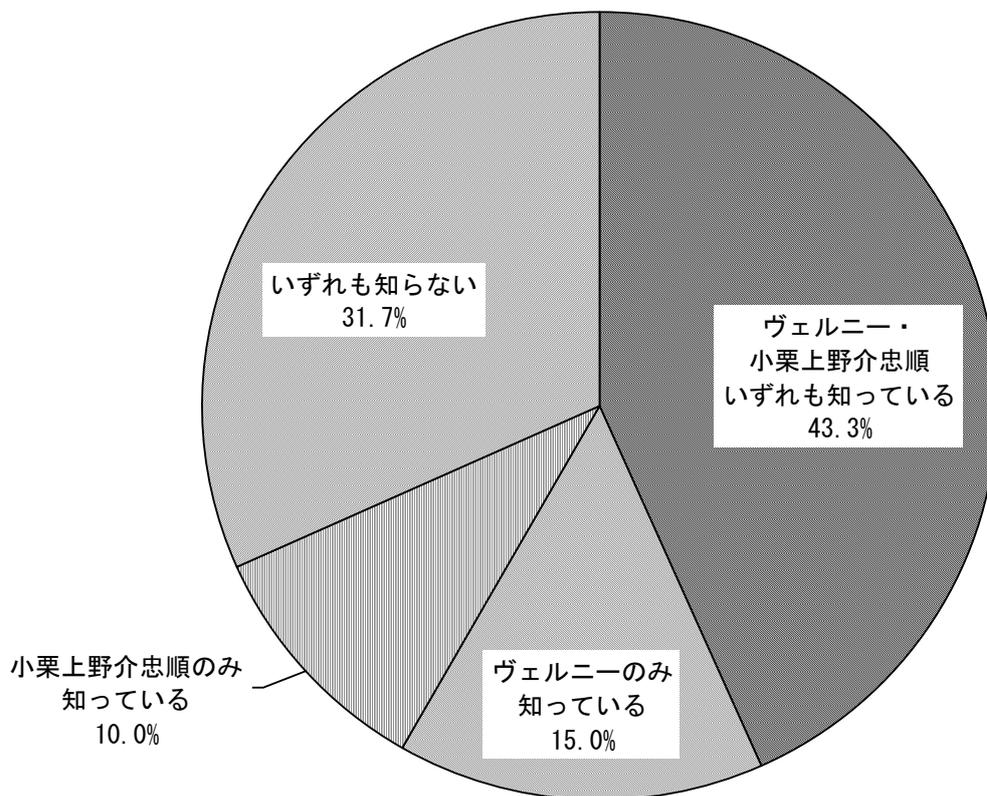
2 横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について 【新規設問】

※横須賀製鉄所ゆかりの人物

- A フランソワ・レオンス・ヴェルニー（横須賀製鉄所首長）
- B 小栗上野介忠順（横須賀製鉄所建設を推進した幕臣）

「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知っている」と回答した人が最も多い(43.3%)。一方、「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知らない」と回答した人も31.7%おり、認知度が高いとはいえない状況である。なお、小栗上野介忠順よりヴェルニーの方が、わずかながら認知度は高い結果となっている。

図表 X-3 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(n=688)



図表 X-4 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(H26 年度)

件数(人)	認知度				割合 (%)
	①ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知っている	②ヴェルニーのみ知っている	③小栗上野介忠順のみ知っている	④いずれも知らない	
688	43.3	15.0	10.0	31.7	

基本的な属性(F1～F6)

(1) 性別 (F1)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		26年度	25年度	24年度	26-25年度比	25-24年度比
全体	731	100.0	100.0	100.0		
男性	317	43.4	41.0	41.0	2.4	0.0
女性	403	55.1	56.4	55.2	▲ 1.3	1.2
無回答	11	1.5	2.6	3.8	▲ 1.1	▲ 1.2

(2) 年齢 (F2)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		26年度	25年度	24年度	26-25年度比	25-24年度比
全体	731	100	100.0	100.0		
15～19歳	20	2.7	2.5	3.8	0.2	▲ 1.3
20～29歳	64	8.8	8.1	8.8	0.7	▲ 0.7
30～39歳	93	12.7	12.0	11.4	0.7	0.6
40～49歳	122	16.7	13.5	15.4	3.2	▲ 1.9
50～59歳	108	14.8	18.6	17.7	▲ 3.8	0.9
60～69歳	162	22.2	23.0	20.0	▲ 0.8	3.0
70歳以上	150	20.5	19.8	19.2	0.7	0.6
無回答	12	1.6	2.6	3.7	▲ 1.0	▲ 1.1

(3) 居住地域 (F3)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		26年度	25年度	24年度	26-25年度比	25-24年度比
全体	731	100.0	100.0	100.0		
本庁地域	103	14.1	13.5	15.7	0.6	▲ 2.2
追浜地域	63	8.6	7.1	5.6	1.5	1.5
田浦地域	39	5.3	4.1	4.6	1.2	▲ 0.5
逸見地域	13	1.8	2.2	2.7	▲ 0.4	▲ 0.5
衣笠地域	102	14.0	14.2	14.8	▲ 0.2	▲ 0.6
大津地域	76	10.4	10.5	9.5	▲ 0.1	1.0
浦賀地域	84	11.5	12.6	12.9	▲ 1.1	▲ 0.3
久里浜地域	96	13.1	13.0	13.7	0.1	▲ 0.7
北下浦地域	61	8.3	8.9	8.5	▲ 0.6	0.4
西地域	80	10.9	11.3	8.5	▲ 0.4	2.8
無回答	14	1.9	2.6	3.8	▲ 0.7	▲ 1.2

(4) 職業 (F4)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		26年度	25年度	24年度	26-25年度比	25-24年度比
全体	731	100.0	100.0	100.0		
農林漁業	3	0.4	0.3	0.6	0.1	▲ 0.3
自営(商店・工務店・工場等)	15	2.1	1.4	2.0	0.7	▲ 0.6
自営(サービス業)	18	2.5	2.0	2.0	0.5	0.0
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	105	14.4	16.1	16.4	▲ 1.7	▲ 0.3
会社員・公務員(販売/サービス)	60	8.2	11.2	8.3	▲ 3.0	2.9
会社員・公務員 (保安・運輸/通信・建設/労務)	37	5.1	4.4	4.7	0.7	▲ 0.3
自由業	6	0.8	0.5	0.8	0.3	▲ 0.3
家事専業	126	17.2	16.4	16.2	0.8	0.2
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	111	15.2	16.4	13.7	▲ 1.2	2.7
学生	29	4.0	2.6	5.3	1.4	▲ 2.7
無職	183	25.0	23.4	23.3	1.6	0.1
その他	26	3.6	2.9	3.2	0.7	▲ 0.3
無回答	12	1.6	2.5	3.5	▲ 0.9	▲ 1.0

(5) 世帯の状況 (F5)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		26年度	25年度	24年度	26-25年度比	25-24年度比
全体	765	100.0	100.0	100.0		
単身世帯(一人暮らし)	118	15.4	14.0	14.4	1.4	▲ 0.4
夫婦のみ	229	29.9			29.9	0.0
小学生未満の子どもがいる	47	6.1	6.0	6.3	0.1	▲ 0.3
小学生～中学生の子どもがいる	78	10.2	9.4	8.0	0.8	1.4
65歳以上の高齢者がいる	131	17.1	39.4	39.2	▲ 22.3	0.2
該当なし	150	19.6	28.7	28.8	▲ 9.1	▲ 0.1
無回答	12	1.6	2.5	3.2	▲ 0.9	▲ 0.7

※複数回答

(6) 居住年数 (F6)

項目	件数(人)	構成比(%)		増減
		26年度	25年度	26-25年度比
全体	731	100.0	100.0	
1年未満	5	0.7	0.4	0.3
1～3年	29	4.0	2.9	1.1
4～9年	46	6.3	6.0	0.3
10～14年	45	6.2	5.9	0.3
15～19年	52	7.1	8.1	▲ 1.0
20～24年	59	8.1	8.7	▲ 0.6
25年以上	484	66.2	65.4	0.8
無回答	11	1.5	2.6	▲ 1.1

※平成24年度は調査なし

基本計画重点プログラム 市民アンケート

質問・回答用紙

-
- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
 - ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に封入し、平成 26 年 5 月 12 日（月）までにご投函ください。
 - ◇ 本調査結果は、市ホームページなどで公表しますが、「アンケート調査結果報告書」の送付を希望される場合は、返信用封筒の裏面に住所・氏名を記載してください。（封筒はアンケート集計には利用しません）
-

重点プログラム1 『新しい芽を育む』

～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

- 問1** 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
現在について、選択肢1-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢1-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢1-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢1-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問2** 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。

現在について、選択肢2-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢2-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢2-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢2-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

- 問3** 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。
現在について、選択肢3 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢3 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢3 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢3 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問4** 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

現在について、選択肢4 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢4 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢4 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢4 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

- 問5** 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。
現在について、選択肢5 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢5 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢5 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢5 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問6** 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。
現在について、選択肢6 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢6 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢6 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢6 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

問7 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。

現在について、選択肢7 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢7 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢7 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢7 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問8 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

現在について、選択肢8 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢8 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢8 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢8 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～

- 問9** 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いませんか。
現在について、選択肢9-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢9-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
--------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢9-(1)
① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない

以前との比較 において	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
----------------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢9-(2)
① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問10** 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ*機能の強化」が図られているまちだと思いませんか。
現在について、選択肢10-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢10-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

*コミュニティ：同じ地域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり

現在について	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
--------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢10-(1)
① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない

以前との比較 において	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
----------------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢10-(2)
① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

『持続可能な発展を遂げる都市力』について

今日、多くの自治体がそうであるように、横須賀市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面しています。

これまでの設問では、この厳しい状況下で着実に成長できるための土台づくり、また、全政策・施策の先導役として基本計画に位置付けた「5つの重点プログラム」に関して、皆さまの実感をお伺いしてきました。

問 11 重点プログラムに関する設問の最後にお伺いします。

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまちだと思いますか。

現在について、選択肢 11 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、選択肢 11 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 11 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢 11 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 12 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。次の選択肢から優先すべきと思う順に3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。

なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 人間性豊かな子どもの育成
- ③ 誰もが活躍できるまちづくり
- ④ 安全で安心なまちづくり
- ⑤ 人と自然が共生するまちづくり
- ⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
- ⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
- ⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
- ⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
- ⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
- ⑪ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番 目	2 番 目	3 番 目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
-------	-------	-------	--------------------------

『横須賀市の魅力やイメージ』について

『横須賀市の魅力やイメージ』についてお伺いします。

問 13 あなたにとって、横須賀市の魅力的なところとは、どのようなところだと思いますか。
次の選択肢から魅力的だと思う順に3つまで選んで回答欄に記入してください。
なお、⑮その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 教育や文化の水準が高い
- ② 子育てに対する支援が充実している
- ③ 高齢者、障害者などへの福祉が充実している
- ④ 道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である
- ⑤ 身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている
- ⑥ 犯罪が少ない・防災面が充実しているなど安心して暮らせる
- ⑦ 大都市に近く、通勤・通学に便利である
- ⑧ 仕事や収入の機会に恵まれている
- ⑨ 海や緑などの自然環境に恵まれている
- ⑩ 魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる
- ⑪ 観光資源や歴史的資産に恵まれている
- ⑫ 国際色豊かである
- ⑬ 市民のマナーが良く、快適な生活ができる
- ⑭ 地域での人間関係がとてもよい
- ⑮ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番目	2 番目	3 番目	「⑮その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
------	------	------	--------------------------

問 14 あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じていますか。
次の選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 感じている ② やや感じている ③ どちらともいえない ④ あまり感じていない
⑤ 感じていない ⑥ わからない

回答欄

--

問 15 あなたが考える横須賀市のイメージについて、「現在の都市イメージ（A）」および「望ましい都市イメージ（B）」を、次の選択肢からそれぞれ3つまで選んで回答欄に記入してください。
 なお、⑱その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」
- ② さまざまな分野の研究開発機関が集積する「ICT（情報通信技術）・先端技術のまち」
- ③ 芸術・文化活動が盛んな「文化芸術のまち」
- ④ 米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」
- ⑤ 防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」
- ⑥ 市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」
- ⑦ 豊かな自然が残されている「自然環境に恵まれたまち」
- ⑧ 首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」
- ⑨ ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」
- ⑩ 道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」
- ⑪ 健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」
- ⑫ 高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」
- ⑬ 保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」
- ⑭ 学校教育が充実した「教育のまち」
- ⑮ 農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」
- ⑯ 自動車産業など「工業が盛んなまち」
- ⑰ 商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」
- ⑱ その他（ご自由にお書きください）

回答欄

A 欄 (現在の都市イメージ)	1 番目	2 番目	3 番目	「⑱その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
	1 番目	2 番目	3 番目	
B 欄 (望ましい都市イメージ)	1 番目	2 番目	3 番目	「⑱その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

『横須賀市の住み良さや定住意識』について

『横須賀市の住み良さや定住意識』についてお伺いします。

- 問 16** あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
-----	----------------------	----	----------------------

選択肢

- ① 住み良い ② まあまあ住み良い ③ あまり住み良くない ④ 住みにくい
⑤ わからない

- 問 17** あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

回答欄	<input type="text"/>
-----	----------------------

選択肢

- ① 今住んでいるところに住み続けたい ② 横須賀市内のどこかに住み続けたい
③ 市外に転居したい

※選択肢①②を選んだ方は、問 18 へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、12 ページの問 19 へ進んでください。

問 18 【問 17 で①または②を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に2つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよい
- ② 教育環境がよい
- ③ 福祉サービスが充実している
- ④ 治安がよい
- ⑤ 災害への心配がない
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されている
- ⑦ 自然環境が豊か
- ⑧ 市内の雇用状況がよい
- ⑨ 買い物しやすい
- ⑩ 通勤・通学に便利
- ⑪ 望ましい住宅が取得できる
- ⑫ 住民の雰囲気が良い
- ⑬ 親・親族が近くに住んでいる
- ⑭ その他

回答欄【問 17 で①または②を選んだ方のみ】

1 番目	具体的な理由をお書き下さい
2 番目	具体的な理由をお書き下さい

問 19 【問 17 で③を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に2つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよくない
- ② 教育環境がよくない
- ③ 福祉サービスが充実していない
- ④ 治安がよくない
- ⑤ 災害が心配
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されていない
- ⑦ 自然環境が豊かでない
- ⑧ 市内の雇用が少ない
- ⑨ 買い物に不便
- ⑩ 通勤・通学に不便
- ⑪ 望ましい住宅が取得できない
- ⑫ 住民の雰囲気がよくない
- ⑬ 親・親族の近くに住みたい
- ⑭ その他

回答欄【問 17 で③を選んだ方のみ】

1 番目	具体的な理由をお書き下さい
2 番目	具体的な理由をお書き下さい

あなたの健康づくりについて

少子高齢化が進む中、横須賀市では、市民の皆さまがいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指しています。自身の健康管理に関心を持つことや、健康の維持、増進、改善などの行動が広がるように、環境を整えていきます。

そこで、皆さまの健康づくりについてお伺いします。

問 20 あなたは、普段、自分は健康だと思いますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 健康だと思う ② まあまあ健康だと思う ③ あまり健康ではないと思う
④ 健康ではないと思う

問 21 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。
なお、⑥その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

回答欄

「⑥その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

選択肢

- ① 学校・勤務先での健康診断 ② 病院等医療機関での健康診断
③ 保健所健診センターでの健康診断 ④ かかりつけの病院・医院での診療
⑤ 把握していない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

問 22 あなたは、30分以上*の運動（ウォーキングや自転車での走行等を含む）をどれくらいしていますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

*30分以上：1日の合計で30分以上（例：10分を3回なども含む）

回答欄

選択肢

- ① 週3日以上 ② 週2日 ③ 週1日 ④ 月2～3日 ⑤ ほとんどしない

地産地消について

横須賀市では、地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指しています。よこすかポートマーケット、すかなごっそをはじめとする「よこすか地産地消ショップ*」を、積極的にPRしています。

そこで、皆さまの地産地消に対する意識についてお伺いします。

*「よこすか地産地消ショップ」では、地場産農水産物を常に取り扱っています。200店以上の飲食店・販売店が登録しています。

問 23 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、農水産物（食材）の産地を意識しますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 意識する ② ときどき意識する ③ どちらともいえない ④ 意識しない

※ 選択肢①②を選んだ方は、問 24 へ進んでください。

※ 選択肢③④を選んだ方は、問 25 へ進んでください。

問 24 【問 23 で①または②を選んだ方に伺います。】
あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、横須賀市産の農水産物（食材）を選びますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 必ず選ぶ ② ときどき選ぶ ③ 選ばない ④ 見かけたことがない

横須賀製鉄所（造船所）について

「横須賀製鉄所」（のちの造船所）は、江戸時代末期の1865年、江戸幕府の幕臣である小栗上野介忠順（おぐりこうずけのすけただまさ）らの進言により、フランスの技術者ヴェルニーを招いて建設されました。「横須賀製鉄所」で使用されていた国指定重要文化財「スチームハンマー」は、ヴェルニー記念館に展示されています。

現在、世界遺産候補となっている富岡製糸場（群馬県）は、「横須賀製鉄所」をモデルに設計され、製鉄所の技術が導入されています。また、当時のフランス人技師たちにより、メートル法、複式簿記などが日本で初めて製鉄所で用いられました。

このように、日本の近代工業技術の礎を築き、横須賀の都市としての発展の大きな推進力となった「横須賀製鉄所」は、来年2015年で、開設から150年の節目を迎えます。

そこで、横須賀製鉄所（造船所）に関してお伺いします。

問 25 あなたは、横須賀製鉄所（造船所）について知っていますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① よく知っている ② 知っている ③ 聞いたことがある ④ 知らない

問 26 あなたは、横須賀製鉄所（造船所）にゆかりのある次のA、Bの人物について知っていますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

- A フランソワ・レオンス・ヴェルニー（横須賀製鉄所首長）
B 小栗上野介忠順（横須賀製鉄所建設を推進した幕臣）

回答欄

選択肢

- ① 2人とも知っている ② Aのみ知っている ③ Bのみ知っている
④ 2人とも知らない

あなた自身のことについてお伺いします

**※記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。
分析に必要なデータですので、全員の方がお答えください。**

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1 <性別>

- ① 男性 ② 女性

回答欄

F 2 <年齢>

- ① 15～19歳 ② 20～24歳 ③ 25～29歳 ④ 30～34歳
⑤ 35～39歳 ⑥ 40～44歳 ⑦ 45～49歳 ⑧ 50～54歳
⑨ 55～59歳 ⑩ 60～64歳 ⑪ 65～69歳 ⑫ 70～74歳
⑬ 75歳以上

回答欄

F 3 <お住まいの地域> (次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

- ① 本庁地域 ② 追浜地域 ③ 田浦地域 ④ 逸見地域
⑤ 衣笠地域 ⑥ 大津地域 ⑦ 浦賀地域 ⑧ 久里浜地域
⑨ 北下浦地域 ⑩ 西地域

回答欄

F 4 <職業>

- ① 農林漁業 ② 自営(商店・工務店・工場等)
③ 自営(サービス業) ④ 会社員・公務員(事務職・専門職・管理職)
⑤ 会社員・公務員(販売/サービス) ⑥ 会社員・公務員(保安・運輸/通信・建設/労務)
⑦ 自由業 ⑧ 家事専業
⑨ アルバイト・パートタイマー・派遣社員 ⑩ 学生
⑪ 無職 ⑫ その他

回答欄

F 5 <世帯の状況(同居)> (複数回答可 ※①を選択した場合は他の選択肢を選択できません)

- ① 単身世帯(一人暮らし) ② 夫婦のみの世帯
③ 世帯に小学生未満の子どもがいる ④ 世帯に小学生～中学生の子どもがいる
⑤ 世帯に65歳以上の高齢者がいる(ご自身を除く) ⑥ ①～⑤に該当なし

回答欄

F 6 <横須賀市に住んでいる年数>

- ① 1年未満 ② 1～3年 ③ 4～9年 ④ 10～14年
⑤ 15～19年 ⑥ 20～24年 ⑦ 25年以上

回答欄

ご協力ありがとうございました。

地域別一覧表

(町名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡ ①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡ ②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡ ③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡ ④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡ ⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡ ⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井	➡ ⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡ ⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡ ⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡ ⑩西地域

基本計画重点プログラム市民アンケート報告書

発行年月：平成26年（2014年）9月

編集・発行：横須賀市政策推進部政策推進課（都市政策研究所）

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

電話：046-822-8258 FAX：046-822-9285